

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
106-235	高等学校	国語科	現代の国語	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		

1. 編修の基本方針

- 近現代のすぐれた文章に触れることにより、言語感覚を磨き、知識と教養を身に付け、豊かな感性や情緒を育むことができるようとした。
- 生徒が自主的・主体的に学習活動を行うことにより、思考力・判断力・表現力を養い、自発的・創造的な人間形成に進むことができるよう考慮した。
- 対話的・協働的な学習活動を積み重ねることにより、さまざまな社会的要請に応え得る人間性の育成に役立てられるようにした。
- 現代社会における問題を具体的に扱った教材を意識的に採録して、人間・環境・社会などさまざまな課題に向き合う態度を養うことができるよう配慮した。
- 我が国の言語文化の伝統を深く理解したうえで、言葉によって的確に理解し、適切に交流する能力をはぐくみ、真に国際的な人間形成を促すことを期した。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
考え方を組み立てる —自己と他者	<ul style="list-style-type: none"> 読書や学問に関わる題材を採録し、幅広い知識と教養を身に付け、真理を探究する人間のさまざまありようを示すことによって、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけられるようにした（第1号）。 スピーチを行う活動を設定し、自分の考え方や事柄を国語で適切に伝える能力を伸ばせるようにした（第1号）。 個性を肯定するとともに、多様な価値観について述べた題材を採録し、異なる立場からの意見を尊重する態度を身に付けられるように配慮した（第2号）。 	p. 14～p. 21 p. 22～p. 25 p. 26～p. 33
効果的に伝える	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションを円滑に行えるよう、話し方の基礎を身に付けたり、口頭で案内したりする活動を設定し、自分の考え方や事柄を国語で適切に伝える能力を伸ばせるようにした（第1号）。 目的に合わせて機器を用いたり、情報を収集して適切に扱ったりといった、現代社会において重要なとされる能力を高めることを目指した（第1号）。 	p. 36～p. 39 p. 40～p. 43 p. 44～p. 56
論理の展開を捉える	・文章の論理構造を捉えて論理的に考える力を育み、社会生活に必要な言葉の知識や技能を身に付けることを目指した（第1号）。	p. 58～p. 74

情報を集める —言葉と文化	<ul style="list-style-type: none"> 比較文化論・言語論を採録して、我が国の言語文化に対する関心を喚起するとともに、他国の文化を尊重する態度を養うことができるよう配慮した（第5号）。 レポートを書くという、実社会と深く関わる題材を積極的に採録し、生徒が自らの問題として考えを深めることができるようとした（第3号）。 	p. 76～p. 83 p. 94～p. 101 p. 90～p. 93
情報を活用する —科学技術とメディア	<ul style="list-style-type: none"> 科学技術の発展、メディアへの向き合い方など、現代の諸問題を取り上げた題材を採録し、生徒が社会の形成と発展について考察を深められるよう配慮した（第3号）。 	p. 104～p. 111 p. 112～p. 121
相手を説得する	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションを円滑に行えるよう、書き方の基礎を身に付け、自分の考え方や事柄を国語で適切に伝える能力を伸ばせるようにした（第1号）。 生徒にとっての実社会と深く関わる、取扱説明書や紹介文を書く活動を設定し、生徒が自らの問題として考えを深めることができるようとした（第3号）。 	p. 128～p. 133 p. 134～p. 137 p. 138～p. 148
根拠を示して主張する	<ul style="list-style-type: none"> 文章の構成や論展開を捉え、論理的に考える力を育むことで、社会生活に必要な言葉の知識や技能を身に付けることを目指した（第1号）。 	p. 150～p. 154 p. 155～p. 160 p. 161～p. 164
主張を把握する —身体と時間	<ul style="list-style-type: none"> 身体論を採録し、真理を探究する人間のありようを示すことによって、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけられるようにした（第1号）。 近代社会の秩序や理念について述べた題材を採録し、生徒が社会の形成と発展について考察を深められるよう配慮した（第3号）。 	p. 166～p. 171 p. 174～p. 181
主張を吟味する —経済社会と人間	<ul style="list-style-type: none"> 資本主義や近代社会の秩序や理念など、現代の諸問題を取り上げた題材を採録し、生徒が社会の形成と発展について考察を深められるよう配慮した（第3号）。 働くことや社会生活を送ることについて考察した題材を採録し、生徒が自らの問題として考えを深められるようにした（第2号）。 学校生活や地域生活など、実社会に対する意見文を書く活動を設定し、生徒が自らの問題として考えを深めることができるようとした（第3号）。 	p. 184～p. 192 p. 200～p. 209 p. 193～p. 199 p. 210～p. 215
主張を比較する —環境と倫理	<ul style="list-style-type: none"> 環境、自然、生命といった、現代の諸問題に深く関わる題材を採録し、生命を尊ぶ態度を養うとともに、生徒が自らの問題として考えを深めることができるように配慮した（第4号）。 科学と技術の関係について述べた題材を採録し、生徒が社会の形成と発展について考察を深められるよう配慮した（第3号）。 	p. 218～p. 226 p. 237～p. 245 p. 227～p. 236
合意を形成する —現代社会の課題	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会の秩序や理念について述べた題材を採録し、生徒が社会の形成と発展について考察を深められるよう配慮した（第3号）。 話し合って意見をまとめる活動を設定し、自ら課題を設定して取り組む態度を養うことができるように配慮した。課題の内容についても、生徒の自由な創造性を伸ばすことを目的にしたものを取り入れた（第2号）。 	p. 248～p. 254 p. 255～p. 275 p. 276～p. 281

実用文を読む —生活の中の表現	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活や地域生活など、生徒にとっての実社会と深く関わる題材を積極的に採録し、生徒が自らの問題として考えを深めことができるようにした（第3号）。 	p. 284～p. 287 p. 288～p. 292
--------------------	---	-----------------------------

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・第二条第3号及び、学校教育法第51条1号「国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと」、また、第3号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」を踏まえ、評論教材の最後に「学習の手引き」「言語活動の手引き」「言葉の手引き」として課題を用意し、発表や話し合いを含む多様な学習活動を設定した。教材の内容や構成などについて理解を深め、自らの考え方を的確に表現する資質・能力を養うとともに、生徒相互の意見交流を通じて、多角的で客観性のある批判的思考能力を養えるよう配慮した。
- ・「読みを広げる」を設定して、読書の幅を広げることができるようになった。
- ・「コラム」を設定して、目的に合わせて機器を用いたり、情報を収集して適切に扱ったりといった、現代社会において重要とされる能力を高めることができるようになった。
- ・「評論キーパーソン一覧」として、現代の思想に影響を与えた主たる思想家・哲学者を示し、幅広い知識と教養を身に付けられるよう配慮した。
- ・「資料編」に、表記や表現、文字や語彙、コミュニケーションに関する実用的な資料を採録し、実生活に必要な知識と教養を身に付けることができるようになった。
- ・書体にユニバーサルデザインフォントを取り入れたほか、カラーユニバーサルデザインにも配慮し、すべての生徒にとって学びやすい紙面となるよう配慮した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
106-235	高等学校	国語科	現代の国語	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

①単元構成・教材選定

- ・国語の資質・能力を育成し、実社会に必要な国語の知識や技能を効果的に身につけるため、思考力・判断力を育成するための学びと、表現力を育成するための学びとが、それぞれ系統的に行えるように教材を配置した。
- ・評論、および、実用的な文章を取り上げた箇所では、身につけたい国語の力と文章テーマとを意識して単元を構成し、教材どうしが有機的な繋がりをもって学習できることを意図した。
- ・「A 話すこと・聞くこと」と「B 書くこと」に関わる教材を取り上げ、「現代の国語」の目標に掲げられている、「他者との関わりの中で伝え合う力を高め」るための学びを実現することを意図した。
- ・「C 読むこと」の教材選定にあたっては、生徒の発達段階や中学校の国語科との接続にも配慮しつつ、高校生が身についておくべき幅広い知識を提供し得る作品をさまざまな分野から厳選し、人間や社会に対する視野や考えが次第に広がり深まるように教材を配列した。
- ・単元の扉に、単元の各教材で学習する内容を「学習のねらい」として示し、教材の意図を学習者全体で共有しながら学びに取り組むことができるようとした。
→「生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る」ための配慮。

②[知識及び技能]への対応

- ・「注意すべき語句」を抽出したり、「言葉の手引き」を設定したりして、「C 読むこと」の内容と関連づけながら漢字・語句・表現・修辞等の知識を深めるとともに、文脈の中で語感を磨き、語彙を豊かにできるようにした。
- ・情報と情報との関係については、「C 読むこと」の内容と関連づけながら「学習の手引き」で理解を深めるとともに、「論理の展開を捉える」「根拠を示して主張する」という単元を設け、情報どうしの関係性に注目して論理構造を捉えるための方法を示した。
- ・巻末に「資料編」、巻頭と巻末に「口絵」を用意し、豊富な資料や写真・図版を掲載して、知識をより深めるための一助とした。
- ・作品ごとに作者解説を付し、出典の情報を示して読書につながる興味づけを図るとともに、単元末に「読みを広げる」を設けて、単元で学んだテーマについて深く知り、読書の幅を広げることができるよう意図した。

③[思考力、判断力、表現力等]への対応

- ・「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」に関しては、言語活動を主体として教材を設定し、具体的な活動を通して表現力や想像力を高め、自分の考えを広げて伝え合う能力を育成することを目指した。教材として取り上げる項目は、「言語活動例」に示された内容に即して選定した。
- ・「C 読むこと」に関しては、脚注の「問」、および「学習の手引き」「言語活動の手引き」の三つの課題設定によって、作品の内容理解を深め、興味を広げることができるようにした。
- *「問」は、本文を解釈するうえでポイントとなる箇所に、内容理解を確認する目的で示した。
- *「学習の手引き」は、文章全体の構成の把握、構成を支えている論理（各段落のはたらき、段落相互の関係、論展開など）の把握、「学習のねらい」に沿った内容の解釈および評価という、基本的に三つの事柄を行うことを主旨として設定した。
- *「言語活動の手引き」は、本文を学習して得た知識や、本文に関連する事柄などをもとして、文章を書いて発表したり、調査・報告を行ったりするなど、「読むこと」と「話すこと・聞くこと」「書くこと」の両方に關わる言語活動を行うことを主旨として設定した。取り組み方や手順について導入が必要となるものについては、別ページに独立させて、段階的に活動を設定した。
- *一部の言語活動について、活動に取り組むうえで必要となる文章を「参考」として示した。
- ・実用的な文章は、実用と活用に重点を置いて、言語活動を主体とした課題設定を行った。

2. 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容									該当箇所	配当時数		
		知識及び技能			思考力・表現力・判断力等							聞話くすこと	書くこと	読むこと
単元	教材	(1)	(2)	(3)	聞話くすことと(1)・	聞話くすことと(2)・	書くこと(1)	書くこと(2)	読むこと(1)	読むこと(2)				
考え方を組み立てる —自己と他者	「何も知らない〈私〉」を知ること	ウ・エ・オ	ア・イ・ウ						ア・イ	ア	p.14～p.20		1	1
	〔言語活動〕筆者の主張をふまえて、自分の考えを発表しよう	イ	エ		ア・イ・ウ	ア					p.21	3		3
	スピーチで自分を伝える	イ	エ		ア・イ・ウ・エ	ア					p.22～p.25	3		3
	「本当の自分」幻想	ウ・エ・オ	ア・イ・ウ				イ・ウ	ア	ア・イ	ア	p.26～p.33	1	1	2
	〔読みを広げる〕※以下6箇所			ア							p.34			
効果的に伝える	話し方の基礎レッスン	イ・カ			ア・イ・ウ						p.36～p.39	3		3
	相手に伝わる案内をする	イ	エ		ア・イ・ウ・エ	イ					p.40～p.43	3		3
	心を動かすプレゼンテーションを行う 〔参考〕羅生門	イ	エ		ア・イ・ウ・エ	エ					p.44～p.56	5		5
論理的展開を捉える	【対比】「間」の感覚	オ	ア・イ・ウ				イ・ウ	ア	ア・イ	ア	p.58～p.63	0.5	0.5	1
	【具体と抽象】日本語は世界をこのよう に捉える	ア・オ	ア・イ・ウ				イ・ウ	ア	ア・イ	ア	p.64～p.69	0.5	0.5	1
	【事実と意見】「私作り」とプライバシー	オ	ア・イ・ウ				イ・ウ	ア	ア・イ	ア	p.70～p.74	0.5	0.5	1
情報を集める —言葉と文化	水の東西	ウ・エ・オ・カ	ア・イ・ウ				イ・ウ	ア	ア・イ	ア	p.76～p.81	1	1	2
	〔言語活動〕水に関わる芸術や文化を 調べ、その魅力を紹介しよう	イ	エ				ア・イ・ウ	ア・ウ			p.82～p.83	1		1
	〔コラム〕適切な情報を集めるには		エ								p.84～p.87			
	〔コラム〕情報を正しく引用するには		オ								p.88～p.89			
	生活実態を報告するレポートを書く	イ・オ	エ				ア・イ・ウ・エ	ウ			p.90～p.93	2		2
	ものとことは	ア・ウ・エ・オ	ア・イ・ウ	ア			イ・ウ	ア・ウ	ア・イ	ア・イ	p.94～p.101	1	1	2
情報を活用する —科学技術とメディア	人工知能に未来を託せますか？	ウ・エ・オ	ア・イ・ウ				ア・イ・ウ	ア・ウ	ア・イ	ア	p.104～p.111	1	1	2
	現代の「世論操作」	ウ・エ・オ	ア・イ・ウ						ア・イ	ア	p.112～p.119		1	1
	〔言語活動〕メディアへの向き合い方に ついて、考え方を文章にまとめよう		ウ・エ				イ・ウ	ア			p.120～p.121	1		1
	〔コラム〕グラフ・図を正しく読み取るに は		ウ								p.122～p.125			
相手を説得する	書き方の基礎レッスン	イ・オ・カ					イ・ウ				p.128～p.133	2		2
	身近な製品の取扱説明書を作成する	イ・オ	エ				イ・ウ・エ	イ			p.134～p.137	2		2
	説得力のある紹介文を書く 〔参考〕夢十夜	イ・オ	エ				ア・イ・ウ・エ	イ			p.138～p.148	2		2
根拠を示して主張する	【主張と根拠】デザインの本意	オ	ア・ウ				イ・ウ	ア	ア・イ	ア	p.150～p.154	0.5	0.5	1
	【主張と反論】「動機の語彙論」という視 点	オ	ア・ウ				イ・ウ	ア	ア・イ	ア	p.155～p.160	0.5	0.5	1
	【推論】コンピュータが作る俳句	オ	ア・イ・ウ				イ・ウ	ア	ア・イ	ア	p.161～p.164	0.5	0.5	1
主題を把握する —身体と時間	〈鏡〉という現象—装いとは何か	ウ・エ・オ	ア・イ・ウ				ウ	ウ	ア・イ	ア	p.166～p.171	1	1	2
	〔コラム〕文章を要約するには	オ	ア								p.172～p.173			
	不均等な時間	ウ・エ・オ	ア・イ・ウ				イ・ウ	ア	ア・イ	ア	p.174～p.181	1	1	2
主張を吟味する —経済社会と人間	岩井克人が語る「無」から「有」を生む 貨幣	ウ・エ・オ	ア・イ・ウ				ア・イ・ウ	ア・ウ	ア・イ	ア・イ	p.184～p.192	1	1	2
	ロビンソン的人間と自然	ウ・エ・オ	ア・イ・ウ	ア			イ・ウ	ア・ウ	ア・イ	ア・イ	p.193～p.199	1	1	2
	フェアな競争	ウ・エ・オ	ア・イ・ウ				ア・イ・ウ	ア・ウ	ア・イ	ア・イ	p.200～p.209	1	1	2
	社会に対する意見文を書く	イ・オ	エ				ア・イ・ウ・エ	ウ			p.210～p.215	2		2
主張を比較する —環境と倫理	「環境」には「私」がない	ウ・エ・オ	ア・イ・ウ						ア・イ	ア	p.218～p.226		1	1
	「文化」としての科学	ウ・エ・オ	ア・イ・ウ				イ・ウ	ア	ア・イ	ア	p.227～p.236	1	1	2
	生と死が創るもの	ウ・エ・オ	ア・イ・ウ	ア			ア・イ・ウ	ア・ウ	ア・イ	ア・イ	p.237～p.244	1	1	2
	〔言語活動〕文章を読み比べ、自分の 考え方を意見文にまとめよう	イ・オ	イ・エ	ア			イ・ウ	ア			p.245	1		1
合意を形成する —現代社会の課題	〈私〉時代のデモクラシー	ウ・エ・オ	ア・イ・ウ				ア・イ・ウ	ア・ウ	ア・イ	ア	p.248～p.254	1	1	2
	リスクを考える—「みんなで決める」は なぜ重要か	ウ・エ・オ	ア・イ・ウ						ア・イ	ア	p.255～p.263		1	1
	〔言語活動〕グループで話し合った内容 をレポートにまとめよう 〔参考〕公園	イ・オ	イ・エ	ア			ア・イ・ウ	ア			p.264～p.275	1		1
	意見をまとめる話し合いをする	イ	エ		ア・イ・ウ・エ・オ	ウ					p.276～p.281	3		3
実用文を読む —生活の中の表現	学校新聞の記事内容を検討する	オ	エ・オ				イ・ウ・エ	ア・イ	ア・イ	ア・イ	p.284～p.287	0.5	0.5	1
	法律の改正に関わる文章を読み比べ る		ウ・エ				ア・イ・ウ	ア	ア・イ	ア・イ	p.288～p.292	0.5	0.5	1

計 20 30 20 70

常用漢字以外の使用漢字一覧表

音訓一覽表

太初	孝夫	龍安寺	枯山水	世阿彌	魅きつけた	鹿正和	相容れない	阪本俊生	温もり	逸郎	下駄	内宮	切妻型	伊勢	眼高階	高階	戯作	春宮坊	黑洞々	春宮坊	疫病	往んだ	太刀帶	奪つた	検非違使	鶏檜皮	聖柄	汗杉	築土申	料揉烏帽子	朱雀	丹塗り	太宰治	龍之介	清一	由紀夫	囚われて	垣間見る	和宏	漢字											
はじめ	たかお	りょうあんじ	かれさんすい	ぜあみ	ひきつけた	しきまさかず	あいられない	さかもととしお	ぬくもり	いつお	ないくう	きりつまがた	くしな	いせ	めたかしな	こうとうとう	うぐうぼう	さくざんまい	くしな	くしな	うみだ	いんだ	えやみ	たてわき	とつた	けびいし	ひわだ	ひじりづか	かざみ	しろ	さる	もみえぼし	すざく	にぬり	りゆうのすけ	きよかず	だざいおさむ	ゆきお	とらわれて	かいまみる	かずひろ	音訓									
97	94	83	83	80	77	76	76	72	71	68	65	61	60	59	59	59	56	56	55	54	54	54	53	53	52	51	51	50	50	49	49	49	49	48	44	34	32	32	18	14	ページ										
乗てる	了他人事	括つて	進する	拓き	護る	点く	樹山羊	克人	悠介	刺青	像	身体	百姓	大百姓	節	幽い	蝶番	政男	薪男	直垂	藏して	垂	家暴風	眉	おつ開いた	日本武尊	百合	傾けて	斜	墓標	破片	色沢	卓己	統吉見	喜美圭三郎	閉ざされた	言	漢字													
する	さとる	ひとごと	くくつて	すすむ	あずかる	つく	まもる	ひらき	たつる	やぎ	かつひと	はずけ	いみ	イメージ	からだ	いれずみ	からだ	おびやく	くらい	たかし	くらい	ちようつがい	おおひやく	まくして	ひたたれ	あらし	まき	まさお	うつり	はつき	かたぶけて	はかじるし	かけ	つかみ	おさむ	よしみ	けいさぶろう	ことばとざされた	音訓												
241	227	224	220	216	206	206	205	201	200	194	184	182	182	182	174	174	170	167	162	148	148	148	148	147	147	147	147	146	145	145	144	144	143	143	143	143	126	126	117	102	102	102	100	97	ページ						
																																														七転八起	充抗怪我規	漢字			
																																														ななころびや起き	しげき	音訓			
																																														313	282	275	270	248	ページ

出典一覧表

[国語教材]

申請図書			出典						備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等		
14~19	「何も知らない〈私〉」を知ること	国語教材	知の体力（初版）	51~58	永田和宏	新潮社	2018年		
26~32	「本当の自分」幻想	国語教材	私とは何か——「個人」から「分人」へ（第5刷）	30~38、3~8	平野啓一郎	講談社	2013年		
49~55	羅生門	国語教材	芥川龍之介全集 第一巻（第2刷）	127~136	芥川龍之介	岩波書店	1977年		
59~62	「間」の感覚	国語教材	西洋の眼 日本の眼（第1刷）	42~47	高階秀爾	青土社	2001年		
65~68	日本語は世界をこのように捉える	国語教材	日本語は哲学する言語である（初版）	75~83	小浜逸郎	徳間書店	2018年		
71~73	「私作り」とプライバシー	国語教材	ポスト・プライバシー（第1刷）	82~85	阪本俊生	青弓社	2009年		
76~80	水の東西	国語教材	混沌からの表現（第2刷）	131~134	山崎正和	P H P 研究所	1977年		
94~100	ものとことば	国語教材	ことばと文化（第48刷）	27~34	鈴木孝夫	岩波書店	1997年		
104~110	人工知能に未来を託せますか？	国語教材	人工知能に未来を託せますか？——誕生と変遷から考える（第1刷）	66、73~77、192	松田雄馬	岩波書店	2020年		
112~118	現代の「世論操作」	国語教材	メディアは誰のものか——「本と新聞の大学」講義録（第1刷）	175~182	林香里他	集英社	2019年		
143~148	夢十夜	国語教材	漱石全集 第八巻（初版）	32~35、48~50	夏目漱石	岩波書店	1966年		
151~153	デザインの本意	国語教材	日本のデザイン—美意識がつくる未来（第7刷）	43~49	原研哉	岩波書店	2013年		
156~159	「動機の語彙論」という視点	国語教材	「心の闇」と動機の語彙 犯罪報道の一九九〇年代（第1刷）	18~26	鈴木智之	青弓社	2013年		
162~163	コンピュータが作る俳句	国語教材	哲学者クロサキの哲学超入門（初版第1刷）	151~154	黒崎政男	平凡社	2016年		
166~170	〈鏡〉という現象——装いとは何か	国語教材	感覚の幽い風景（初版）	155~160	鷺田清一	中央公論新社	2011年		
174~180	不均等な時間	国語教材	時間についての十二章——哲学における時間の問題（第1刷）	207~214	内山節	岩波書店	2011年		
184~191	岩井克人が語る 「無」から「有」を生む貨幣	国語教材	岩井克人「欲望の貨幣論」を語る（初版）	34~53	丸山俊一+NHK「欲望の資本主義」制作班	東洋経済新報社	2020年		
193~198	ロビンソン的人間と自然	国語教材	基礎講座 哲学（第4刷）	222、239~244	村岡晋一他	筑摩書房	2018年		
200~208	フェアな競争	国語教材	街場の共同体論（2刷）	135~143	内田樹	潮出版社	2014年		
218~225	「環境」には「私」がない	国語教材	私たちのサステイナビリティ——まもり、つくり、次世代につなげる	59~72	工藤尚悟	岩波書店	2022年		
227~235	「文化」としての科学	国語教材	科学と人間の不協和音（初版）	70~81	池内了	角川書店	2012年		
237~243	生と死が創るもの	国語教材	生と死が創るもの（第1刷）	174~179、196~207	柳澤桂子	筑摩書房	2010年		
248~253	〈私〉時代のデモクラシー	国語教材	〈私〉時代のデモクラシー（第1刷）	iv~x	宇野重規	岩波書店	2010年		
255~262	リスクを考える——「みんなで決める」はなぜ重要か	国語教材	リスクを考える——「専門家まかせ」からの脱却（第1刷）	16、32~33、178~180、195~200、190	吉川肇子	筑摩書房	2022年		
265~275	公園	国語教材	名もなき本棚（第1刷）	184~201	三崎亜記	集英社	2022年		

※上記のもの以外については、編集委員による書き下ろしである。

[図・地図]

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
87	最近1ヶ月に読んだ本の冊数	図版	子供の読書活動の推進等に関する調査研究		浜銀総合研究所		2017年	左の出典をもとに作製
106	図1	図版	人工知能に未来を託せますか?——誕生と変遷から考える	75	松田雄馬	岩波書店	2020年	左の出典をもとに作製
107	図2	図版	人工知能に未来を託せますか?——誕生と変遷から考える	75	松田雄馬	岩波書店	2020年	左の出典をもとに作製
121	図1 ニュースを見聞きするメディア(複数回答)	図版	ニュースメディア接触と政治意識		NHK放送文化研究所		2018年	左の出典をもとに作製
121	図2 最もニュースを見聞きするメディア	図版	ニュースメディア接触と政治意識		NHK放送文化研究所		2018年	左の出典をもとに作製
122	牡蠣の1世帯当たり年間支出金額の都道府県庁所在地別上位3位と全国平均(2017年~2019年平均)	図版	家計調査		総務省統計局		2020年	左の出典をもとに作製
122	15歳未満人口の割合の推移	図版	国勢調査		総務省統計局		2021年	左の出典をもとに作製
123	日本の原油の輸入先(2021年度)	図版	エネルギー白書		資源エネルギー庁		2023年	左の出典をもとに作製
123	エネルギーの栄養素別摂取構成比の年次推移	図版	国民栄養調査		厚生省、厚生労働省		1950年~2002年	左の出典をもとに作製
			国民健康・栄養調査		厚生労働省		2003年~2010年	
124	女性就業者の割合と管理職に占める女性の割合	図版	男女共同参画白書		内閣府		2023年	左の出典をもとに作製
125	新体力テスト合計点の年次推移	図版	文部科学白書		文部科学省		2021年	左の出典をもとに作製
125	1週間の総運動時間(体育の授業を除く)	図版	文部科学白書		文部科学省		2021年	左の出典をもとに作製
228		図版	科学と人間の不協和音(初版)	71	池内了	角川書店	2012年	左の出典をもとに作製
290	自転車関連事故件数と摘発件数の推移	図版	自転車関連交通事故の状況		警察庁交通局		2023年	左の出典をもとに作製
			自転車の交通事故の実態と自転車の交通ルールの徹底方策の現状		警察庁交通局交通企画課		2012年	左の出典をもとに作製
290	2011年中の摘発件数(3,956件)の違反種類別内訳	図版	自転車の交通事故の実態と自転車の交通ルールの徹底方策の現状		警察庁交通局交通企画課		2012年	左の出典をもとに作製

※上記以外のものについては自社で作成。

出典一覧表

[写真]

申請図書		出典					備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		
見返①	(身体と時間 イメージ)	写真					ゲッティイメージズ:1062254354	
見返①	(身体と時間 イメージ)	写真					ゲッティイメージズ:158926651	
見返①	(言葉と文化 イメージ)	写真					アプロ:9708313	
見返①	(言葉と文化 イメージ)	写真					アプロ:24443332	
見返①	(自己と他者 イメージ)	写真					アプロ:163103444	
見返①	(自己と他者 イメージ)	写真					ゲッティイメージズ:111768835	
見返②	(環境と倫理 イメージ)	写真					アプロ:58874273	
見返②	(環境と倫理 イメージ)	写真					ゲッティイメージズ:1411604608	
見返②	(環境と倫理 イメージ)	写真					ゲッティイメージズ:57358465	
見返②	科学技術とメディア イメージ)	写真					ゲッティイメージズ:1212006391	
見返②	(科学技術とメディア イメージ)	写真					ゲッティイメージズ:1490136107	
見返②	(現代社会の課題 イメージ)	写真					ゲッティイメージズ:1429993968	
見返②	(現代社会の課題 イメージ)	写真					ゲッティイメージズ:1214780163	
見返②	(経済社会と人間 イメージ)	写真					ユニフォトプレス:00653990	
見返②	(経済社会と人間 イメージ)	写真					ゲッティイメージズ:815096386	
見返②	(経済社会と人間 イメージ)	写真					素材辞典:Vol.57 No.96	
16	松尾芭蕉	写真					芭翁顕彰会(芭翁記念館)	
19	永田和宏	写真					朝日新聞社:P161219000395	
19	『知の体力』	写真	『知の体力』	表紙	永田和宏	新潮社	2018年	自社で撮影
28	ショパン	写真					アプロ:60372984	
29	マイルス・ディビス	写真					アプロ:236182848	
32	平野啓一郎	写真					平野啓一郎	
32	『私とは何か』	写真	『私とは何か—「個人」から「分人」へ』	表紙	平野啓一郎	講談社	2012年	自社で撮影
34	『ある男』	写真	『ある男』	表紙	平野啓一郎	文藝春秋	2021年	自社で撮影
34	『じぶん・この不思議な存在』	写真	『じぶん・この不思議な存在』	表紙	鷺田清一	講談社	1996年	自社で撮影
34	『ポストコロニアリズム』	写真	『ポストコロニアリズム』	表紙	本橋哲也	岩波書店	2005年	自社で撮影
60	バルテノン神殿	写真					サイネットフォト;DKBEE9	
60	伊勢神宮	写真					伊勢神宮	
60	濡れ縁	写真					アプロ:55931157	
60	渡り廊下	写真					サイネットフォト;OKE110004093	
77	鹿おどし	写真					アプロ:9708313	
78	エステ家の別荘の噴水	写真					ユニフォトプレス:ALA_ATN8JA	
78	エステ家の別荘の噴水	写真					ユニフォトプレス:HAGAaf012367	
78	エステ家の別荘の噴水	写真					ユニフォトプレス:ALA_BJPPMC	
78	エステ家の別荘の噴水	写真					時事通信フォト:08025446	
79	日本の庭園	写真					ユニフォトプレス:ALA_BC9174	
80	山崎正和	写真					ユニフォトプレス:KDO2007012900035	
80	『混沌からの表現』	写真	『混沌からの表現』	表紙	山崎正和	筑摩書房	2007年	自社で撮影
83	枯山水	写真					PIXTA:56884615	
83	曲水の宴	写真					サイネットフォト;THI110004099	
83	ヴィルヘルムスヘーエ城公園	写真					ユニフォトプレス:ALA_JA1JCY	
94	タイブライター	写真					PIXTA:80887148	
100	鈴木孝夫	写真					ユニフォトプレス:KDO_2011090200160	
100	『ことばと文化』	写真	『ことばと文化』	表紙	鈴木孝夫	岩波書店	1973年	自社で撮影
102	『言葉とは何か』	写真	『言葉とは何か』	表紙	丸山圭三郎	筑摩書房	2008年	自社で撮影
102	『現代文化論—新しい人文知とは何か』	写真	『現代文化論—新しい人文知とは何か』	表紙	吉見俊哉	有斐閣	2018年	自社で撮影
105	1965年ごろのワイゼンバウム	写真					ユニフォトプレス:FAI_AP1842	
105	ジョゼフ・ワイゼンバウム	写真					ユニフォトプレス:SVD_00120871_p	
110	松田雄馬	写真					松田雄馬	
110	『人工知能に未来を託せますか?』	写真	『人工知能に未来を託せますか? 誕生と変遷から考える』	表紙	松田雄馬	岩波書店	2020年	自社で撮影
112	ロバート・マーサー	写真					ゲッティイメージズ:639768328	
113	トランプ	写真					ユニフォトプレス:ALA_HXDHDR	
115	ドイツ極右政党の選挙ポスター	写真					アプロ:59026234	
118	林香里	写真					朝日新聞社:P210415001069	
118	『メディアは誰のものか』	写真	『メディアは誰のものか—「本と新聞の大学」講義録』	表紙	一色清他	集英社	2019年	自社で撮影
126	『科学とはなにか』	写真	『科学とはなにか 新しい科学論、いま必要な三つの視点』	表紙	佐倉統	講談社	2020年	自社で撮影
126	『流言のメディア史』	写真	『流言のメディア史』	表紙	佐藤卓己	岩波書店	2019年	自社で撮影

申請図書		出典						備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
135	(シャープペンシルの操作)	写真						自社で撮影
135	(シャープペンシルの操作)	写真						自社で撮影
135	(シャープペンシルの操作)	写真						自社で撮影
136	(シャープペンシルの操作)	写真						自社で撮影
136	(シャープペンシルの操作)	写真						自社で撮影
137	(シャープペンシルの操作)	写真						自社で撮影
137	(シャープペンシルの操作)	写真						自社で撮影
145	暁の金星	写真						PIXTA:586416
146	東大寺南大門の金剛力士(仁王)像	写真						公益財団法人美術院
146	東大寺南大門の金剛力士(仁王)像	写真						公益財団法人美術院
166	ニーチェ	写真						サイネットフォト:SPEDHXEYP
170	鷺田清一	写真						鷺田清一
170	『感覚の幽い風景』	写真	『感覚の幽い風景』	表紙	鷺田清一	中央公論新社	2011年	自社で撮影
174	ヤマウド	写真						アーティファクトリー:079MA00102
174	カッコウ	写真						ユニフォトプレス:25_J6715H
174	ウグイス	写真						アーティファクトリー:27000063-063
175	鋤(左)と鍬(右)	写真						アーティファクトリー:13000053-O-01406
180	内山節	写真						共同通信社:2020013003123
180	『時間についての十二章』	写真	『時間についての十二章』	表紙	内山節	岩波書店	2011年	自社で撮影
182	『ちぐはぐな身体—フアッショントゥ何?』	写真	『ちぐはぐな身体—フアッショントゥ何?』	表紙	鷺田清一	筑摩書房	2005年	自社で撮影
182	『時間の比較社会学』	写真	『時間の比較社会学』	表紙	眞木悠介	岩波書店	2003年	自社で撮影
184	マリア・テレジア銀貨	写真						ゲッティイメージズ:466097724
184	ルイ十六世	写真						アプロ:231690671
185	マリー・アントワネット	写真						ユニフォトプレス:3.70463
191	岩井克人	写真						岩井克人
191	『岩井克人「欲望の貨幣論」を語る』	写真	『岩井克人「欲望の貨幣論」を語る』	表紙	丸山俊一	東洋経済新報社	2020年	自社で撮影
193	『ロビンソン・クルーソー』	写真	『完訳 ロビンソン・クルーソー』	表紙	ダニエル・デフォー	中央公論新社	2010年	自社で撮影
198	村岡晋一	写真						村岡晋一
198	『基礎講座 哲学』	写真	『基礎講座 哲学』	表紙	木田元他	筑摩書房	2016年	自社で撮影
206	ロック	写真						サイネットフォト:AGE114836964
207	ホップズ	写真						ユニフォトプレス:BAL_DGA_765624
207	ルソー	写真						ユニフォトプレス:uniHULL00674697
208	内田樹	写真						内田樹
208	『街場の共同体論』	写真	『街場の共同体論』	表紙	内田樹	潮出版社	2016年	自社で撮影
215	(意見文を書く イメージ)	写真						PIXTA:2050285
216	『経済の考え方方がわかる本』	写真	『経済の考え方方がわかる本』	表紙	新井明 他	岩波書店	2005年	自社で撮影
216	『自由はどこまで可能か』	写真	『自由はどこまで可能か=リバタリアニズム入門』	表紙	森村進	講談社	2001年	自社で撮影
216	『正義とは何か』	写真	『正義とは何か』	表紙	神島裕子	中央公論新社	2018年	自社で撮影
225	工藤尚悟	写真						工藤尚悟
225	『私たちのサステナビリティ』	写真	『私たちのサステナビリティ まもり、つくり、次世代につなげる』	表紙	工藤尚悟	岩波書店	2022年	自社で撮影
228	ピカソ	写真						サイネットフォト:AKG110391660
228	ペートーベン	写真						アーティファクトリー:jpp016357862
229	ロダン	写真						サイネットフォト:AKG110391659
235	池内了	写真						朝日新聞社:P170609000607
235	『科学と人間の不協和音』	写真	『科学と人間の不協和音』	表紙	池内了	角川書店	2012年	自社で撮影
240	『われわれはなぜ死ぬのか』	写真	『われわれはなぜ死ぬのか』	表紙	柳澤桂子	草思社	1997年	自社で撮影
241	カインメンの一種	写真						アーティファクトリー:12000511-ES-01488w
243	柳澤桂子	写真						アプロ:26388271
243	『生と死が創るもの』	写真	『生と死が創るもの』	表紙	柳澤桂子	筑摩書房	2010年	自社で撮影
246	『人新世の「資本論」』	写真	『人新世の「資本論」』	表紙	斎藤幸平	集英社	2020年	自社で撮影
246	『手の倫理』	写真	『手の倫理』	表紙	伊藤亜紗	講談社	2020年	自社で撮影
250	ジーグムント・バウマン	写真						時事通信フォト:jlp10015868
253	宇野重規	写真						共同通信社:2023102509222
253	『(私)時代のデモクラシー』	写真	『(私)時代のデモクラシー』	表紙	宇野重規	岩波書店	2010年	自社で撮影
262	吉川肇子	写真						吉川肇子
262	『リスクを考える』	写真	『リスクを考える—専門家まかせからの脱却』	表紙	吉川肇子	筑摩書房	2022年	自社で撮影
282	『民主主義とは何か』	写真	『民主主義とは何か』	表紙	宇野重規	講談社	2020年	自社で撮影
282	『多様性の時代を生きるための哲学』	写真	『多様性の時代を生きるための哲学』	表紙	鹿島茂	祥伝社	2022年	自社で撮影
282	『リスクコミュニケーション』	写真	『リスクコミュニケーション 多様化する危機を乗り越える』	表紙	福田充	平凡社	2022年	自社で撮影
口絵⑤	ペーコン	写真						ユニフォトプレス:uniH_N0600355005
口絵⑤	ロック	写真						サイネットフォト:AGE114836964

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
口絵⑤	デカルト	写真						アプロ:169972709
口絵⑤	スピノザ	写真						ユニフォトプレス:ullstein_high_00803839
口絵⑤	パスカル	写真						ユニフォトプレス:uniH_BAL173175
口絵⑤	ルソー	写真						ユニフォトプレス:uniHULL00674697
口絵⑤	モンテスキュー	写真						ユニフォトプレス:uniH_AIS18864
口絵⑤	カント	写真						アプロ:229829677
見返⑥	ヘーゲル	写真						ユニフォトプレス:BAL_DGA 766636
見返⑥	アダム・スミス	写真						アプロ:60360879
見返⑥	ベンサム	写真						ユニフォトプレス:BAL_CH 824220
見返⑥	ミル	写真						ユニフォトプレス:BAL_LLM 655454
見返⑥	マルクス	写真						サイネットフォト:ABM110428362
見返⑥	キルケゴール	写真						ユニフォトプレス:uniH_AIS63194
見返⑥	ニーチェ	写真						サイネットフォト:SPEDHXEYP
見返⑥	ハイデガー	写真						アプロ:30673424
見返⑥	サルトル	写真						ユニフォトプレス:uniH_RDA00132256
見返⑦	ダーウィン	写真						アプロ:230643517
見返⑦	フッサー	写真						ユニフォトプレス:ullstein_high_00794428
見返⑦	メルロ=ポンティ	写真						アプロ:23674520
見返⑦	フロイト	写真						アプロ:59447971
見返⑦	ユング	写真						ユニフォトプレス:uniH_RDA00011840
見返⑦	ソシュール	写真						アプロ:236184900
見返⑦	ウイグンシュタイン	写真						ユニフォトプレス:3.1683405
見返⑦	レヴィ=ストロース	写真						アプロ:36353503
見返⑦	フーコー	写真						ユニフォトプレス:uniH_RDA00031415
見返⑧	バルト	写真						アプロ:25106647
見返⑧	デリダ	写真						アプロ:236184771
見返⑧	サイード	写真						アプロ:149352444
見返⑧	ソクラテス	写真						アプロ:148299615
見返⑧	プラトン	写真						サイネットフォト:SPECEC9DK
見返⑧	アリストテレス	写真						サイネットフォト:AGE000000207
見返⑧	ルター	写真						ユニフォトプレス:BAL_BEN 98867
見返⑧	コペルニクス	写真						ユニフォトプレス:uniH_AIS271113
見返⑧	ガリレイ	写真						時事通信フォト:0047126151

(備考) 4 (1) 写真等については、肖像権等の権利処理を必要に応じて行うこと。

(2) 著作物の掲載に当たっては、著作権法第33条に基づき、掲載する旨を著作者に通知するとともに、
補償金を著作権者に支払う必要があることに留意すること（別途契約を締結する場合を除く）。

備考4の内容について確認しました。□

原典に加除訂正を加えた箇所と加除訂正の理由

単元名	ページ・行	本文	原典	訂正理由
考え方組み立てる —自己と他者	p 14~19 p 14・5 p 14・8、15・3 p 15・8 p 15・9 p 15・11 p 16・15 p 17・5 p 18・12~15 p 18・15 p 18・15 p 18・16 p 18・16 p 19・2 p 19・5 p 19・11 p 26~32	〈小見出しの削除〉 長い間、一人の人間の中にある細胞の個数はほぼ六十兆個だと言っていたが、二〇一三年に、実はヒトの細胞は六十兆個ではないという論文が出て、その数は三十七兆個ということになっている。 マイクロメートル 地球一周は四万キロメートルであるから、それは地球を九周するだけの長さである。 それは地球を九周するだけの長さである。 ミリメートル 学問へ向かうものである。 しかし、 それは、自分という存在を…… それは大きな損だろう。」と思えれば、 しめた しめたものである。 このように、 読書をするということ、あるいは学問をするということは、 言ってもいい。 意味のほうが大きい。 作っていくのである。 〈原文の削除・修正〉	一人の人間のなかにある細胞の個数がほぼ60兆個というのも常識になりつつあるだろうか。すでに述べたように、この数は37兆個ということになったが、それもまだ確定ではないので、ここでは60兆個として話を進める。 ミクロン 〈原文の一部削除・入れ換えに伴って、文章を整えた〉 それは地球を15周するだけの長さである。 ミリ 〈このあと原文削除〉 しかし 自分という存在を……大きな損だろうと思えれば、 シメタ 〈このあと原文削除〉 先に述べたように、 読書をするということは、 〈このあと原文削除〉 〈このあと原文削除〉 作ってゆく。 〈大幅訂正のため略〉	・評論教材としての学習上の配慮による。 ・発表時と今とで状況が異なるため。以下、この修正については同様。 ・教科書として適切な表現にするため。 ・教科書として読みやすく、また、わかりやすくするため。 ・上記 p 14・5の修正に合わせて修正。以下、この修正については同様。 ・教科書として適切な表現にするため。 ・採録スペースの関係による。 ・教科書として読みやすく、また、わかりやすくするため。以下、原典にない読点については同様。 ・教科書として読みやすく、また、わかりやすくするため。 ・教科書として適切な表現にするため。 ・採録スペースの関係による。 ・前項の削除に合わせて修正。 ・教科書としてより適切な表現にするため。 ・採録スペースの関係による。 ・上記 p 18・15の訂正で削除した内容を受ける表現を削除。 ・教科書として適切な表現にするため。 ・筆者の監修のもと、分量の調整をするとともに、全般にわたって、教科書として適切な表記・表現となるように修正を加えた。
効果的に伝える	p 28・3 p 30・13 p 39・2	〈ルビ〉 すぐおおじ 待っていた。」 襟髪	すじやくおおぢ 待つてゐた」 襟上	・現在の一般的な読み方に改めた。 ・教科書として適切な表記に改めた。以下、原典にない句点については同様。 ・現在の一般的な表記に改めた。
論理の展開を捉える	p 61・11 p 61・12 p 61・17 p 61・18 p 62・7 p 65・1 p 65・10 p 65・13 p 66・1 p 66・6 p 66・8 p 66・11	区別されているのである。 家の内と外の区別は、 問題なのである。 鳥居の意味について 用いられたりする 使い分けています。 反論もあるでしょう。〈改行なし〉「雨が降っている」 動詞連用形の多くが名詞化するのと同じように（「読み」「笑い」など）、 主語と述語を繋辞でつなぐ 「カードの有効期限はどうに切 れている」 こうしていくら 一般に言葉というものは	〈このあと原文削除〉 家の内と外、部屋の内と外の区別は、 〈このあと原文削除〉 鳥居や関守石の意味について 用いられる 〈このあと原文削除〉 反論もあるでしょう。〈改行〉 「雨が降っている」 動詞連用形の多く（「読み」「笑い」など）が名詞化するの と同じように、 繋辞による 「私の父はどうに死んでいる」 しかし、こうしていくら 一般に言葉というものが、	・採録スペースの関係による。 ・前項の訂正で削除した内容を受ける表現を削除。 ・採録スペースの関係による。 ・前項の訂正で削除した内容を受ける表現を削除。 ・教科書として適切な表現にするため。 ・採録スペースの関係による。 ・文章の流れを中断しないため。以下、文を続けた箇所については同様。 ・教科書として読みやすく、また、わかりやすくするため。 ・同上。 ・教育的配慮による。 ・評論教材としての学習上の配慮による。 ・教科書として適切な表現にするため。

単元名	ページ・行	本文	原典	訂正理由
論理の展開を捉える	p 66・11 p 67・7 p 67・11 p 67・13 p 67・15 p 68・6 p 68・7 p 68・14 p 68・15～16 p 71～73 p 71・12 p 72・14 p 73・3	という、固定化した言語觀「ある」という言葉は、つまり語り手主体は、〈一行空きの削除〉乖離していくようなよくわかるでしょう。このように、「ある」は、記述しているだけです。このような……思います。〈小見出しの削除〉「私作り」物語的分身自分自身の物語	というスタティックな言語觀「ある」という言葉が、つまり先に規定した情緒の定義から敷衍するなら、語り手主体は、乖離してゆくような〈このあと原文削除〉いざれにしても、「ある」は、〈このあと原文削除〉〈原文の一部削除に伴って、文章を整えた〉〈私づくり〉〈このあと原文削除〉〈このあと原文削除〉	・わかりやすくするため。 ・教科書として適切な表現にするため。 ・教科書採録箇所以外の部分をさした表現であるため。 ・評論教材としての学習上の配慮による。 ・教科書として適切な表現にするため。 ・採録スペースの関係による。 ・原文の一部削除に伴い、文章を整えるため。 ・採録スペースの関係による。 ・教科書として読みやすく、また、わかりやすくするため。 ・評論教材としての学習上の配慮による。 ・一般的な符号に改めた。以下、符号については同様。 ・煩雑さを避けるため。 ・同上。
情報を集める —言葉と文化	p 94～100 p 94～100 p 98・1	〈小見出しの削除〉なぜならば、ことばは、	〈原文では、小見出しの直後の文は一字下げになっていないが、小見出しの削除に伴って一字下げにした。〉なぜならば、以下に詳しく説明するように、ことばは、	・評論教材としての学習上の配慮による。 ・一般的な表記に改めた。 ・教科書採録箇所以外の部分もさした表現であるため。
情報を活用する —科学技術とメディア	p 104～110 p 112～118 p 112・1 p 113・4 p 113・4 p 113・12 p 114・5 p 114・10 p 114・13 p 114・15 p 115・7 p 115・12 p 115・15 p 117・8 p 117・12 p 118・3	〈原文の削除・修正〉〈小見出しの削除〉今、かつてのような、ブランドを変えさせることは、変わりはない。」生活をしているのか、何を考へているのか、演説をぶって扇動的に「過去の克服」の対象と位置づけて、ナショナリズムを扇動するドイツ戦後史に残る事件です。ポスターを作るなど、ツイートがロシアからロボットで四万五千回自動送信されたボット・ツイートと「夜討ち朝駆け」で政治家の家の前に張り込んでリーク情報を取つたりするというような交通系 IC カード今どこにあるのか。	〈大幅訂正のため略〉そのような状況の中で、実はいま、かつてのような、ブランドを変えることは、〈このあと原文削除〉生活なのか、何を考へているのか。煽動的に演説をぶって「過去の克服」と位置づけて、ナショナリズムを主導するドイツ戦後史の事件です。ポスター（【図 5】）をつくるなど、ツイートをロシアからロボットで四万五〇〇〇回自動送信したボット（bot）・ツイートと「夜討ち朝駆け」で政治家の家の前に張り込んでリーク情報を取つたりとかというような交通 IC カード〈このあと原文削除〉	・筆者の監修のもと、分量の調整をするとともに、全般にわたって、教科書として適切な表記・表現となるように修正を加えた。 ・評論教材としての学習上の配慮による。 ・教科書採録箇所以外の部分をさした表現であるため。 ・教科書として適切な表現にするため。 ・煩雑さを避けるため、出典については省略した。 ・教科書として適切な表現にするため。 ・筆者の意向による。 ・教科書として適切な表現にするため。 ・同上。 ・同上。 ・煩雑さを避けるため。 ・筆者の意向による。 ・煩雑さを避けるため。 ・教科書として適切な表現にするため。 ・同上。 ・同上。 ・煩雑さを避けるため。 ・筆者の意向による。 ・煩雑さを避けるため。 ・教科書として適切な表現にするため。 ・一般的な表現に改めた。 ・特に必要とは思われないため。
根拠を示して主張する	p 151～153 p 151・4 p 152・8 p 152・8 p 152・15 p 153・3～6 p 153・11	〈一行空きの削除〉スマートフォンも、スマホも、古典的なのだ。適用してきたのである。というわけである。ボールが丸くないと、……わけである。努力するようになる。	携帯電話も、携帯も、〈このあと原文削除〉〈このあと原文削除〉〈原文の一部削除・入れ換えに伴って、文章を整えた〉〈このあと原文削除〉	・評論教材としての学習上の配慮による。 ・発表時と今とで状況が異なるため。 ・同上。 ・採録スペースの関係による。 ・同上。 ・教科書として読みやすく、また、わかりやすくするため。 ・採録スペースの関係による。

単元名	ページ・行	本文	原典	訂正理由
根拠を示して主張する	p 153・11 p 153・12 p 153・14 p 156・4 p 156・5 p 156・8 p 156・9 p 156・9 p 156・10 p 157・6 p 157・8 p 157・9 p 157・9 p 158・14 p 158・15 p 158・15 p 159・4 p 159・12 p 159・13 p 159・14 p 159・16 p 159・17 p 162～163 p 162・5 p 163・3 p 163・8 p 163・11 p 163・12 p 163・13	彼らが目ざしたものは探求である。 必然をもたらす あり得ないことになる。 では、 動機は行為に先立って それに基づいて これが後から 試験で学生の不正行為が 習慣的行為は 意識されている 気まぐれで選び取られる いつもは教室の前から 伝達されなければならない。 レパートリーが、「動機の語彙」である。 「動機の語彙」である。 結婚観から見て 身につけているのである。 組織される。 「動機の語彙」 思ってくれないだろう 向けられている。 (小見出し・一行空きの削除) スロットマシンのようなもので す。 間違いなく受け取る。 かつて、魚の頭のほうに斑点があ つて、あたかも人間の顔のよう に見えた、「人面魚」と呼ばれた魚 がいました。 発生させているわけです。 俳句なら、 コンピュータには	柳宗理も、めざしたものは <このあと原文削除> <このあと原文削除> <このあと原文削除> しかし、 動機は先立って これに基づいて <このあと原文削除> 大学の試験で学生の不正行為（カ ンニング）が 習慣的・慣習的行為は 意識されていた 気まぐれで“なんとなく”選び 取られる 大学の教室で、いつもは教室の 前から <このあと原文削除> レパートリーが存在すると考 えた。これが「動機の語彙」であ る。 <このあと原文削除> <このあと原文削除> <このあと原文削除> <このあと原文削除> <このあと原文削除> <このあと原文削除> <このあと原文削除> <このあと原文削除> <このあと原文削除> <このあと原文削除>	・原文の一部削除に伴い、文章を 整えるため。 ・採録スペースの関係による。 ・同上。 ・同上。 ・原文の一部削除に伴い、文章を 整えるため。 ・わかりやすくするため。 ・教科書として適切な表現にする ため。 ・わかりやすくするため。 ・学習上の配慮による。 ・煩雑さを避けるため。 ・教科書として適切な表現にする ため。 ・煩雑さを避けるため。 ・学習上の配慮による。 ・採録スペースの関係による。 ・原文の一部削除に伴い、文章を 整えるため。 ・採録スペースの関係による。 ・煩雑さを避けるため。 ・上記 p 158・14の訂正に合わせ て削除。 ・採録スペースの関係による。 ・教科書として読みやすく、また、 わかりやすくするため符号を追加。 以下、原典にない符号について は同様。 ・採録スペースの関係による。 ・上記 p 158・14の訂正に合わせ て削除。 ・評論教材としての学習上の配慮 による。 ・部分採録のため。 ・特に必要とは思われないため。 ・教科書として読みやすく、また、 わかりやすくするため。 ・教科書採録箇所以外の部分をさ した表現であるため。 ・同上。 ・同上。
主張を把握する —身体と時間	p 167・1 p 167・2 p 167・5 p 167・5 p 167・13 p 167・16 p 168・15 p 168・16 p 169・4 p 176・17 p 177・3 p 177・13 p 178・4	かかわれないものであるらしい。 (一字下げ) 物質としての 自分の存在を映す。 つまり、わたしたちは 機能していると言える。 はじめて織り上げることが可能に なるものだ。 共同 書き込んでいく。 映し合うという、〈鏡〉の現象の 性のゲーム、〈鏡〉の現象の 村人たちは知っている。 (節番号を削除し、一行空きとし た) 発生であろう。 森を時計の時間とともに	<このあと原文削除> <このあと原文削除> <このあと原文削除> わたしたちは <このあと原文削除> はじめて可能になるものだ。 協同 書き込んでゆく。 映しあうという、そういう間身体 性のゲーム、〈鏡〉の現象の <このあと原文削除> <このあと原文削除>	・採録スペースの関係による。 ・前項の削除に合わせて修正。 ・採録スペースの関係による。 ・前項の削除に合わせて修正。 ・煩雑さを避けるため。 ・教科書として読みやすく、また、 わかりやすくするため。 ・わかりやすくするため。以下、 この修正については同様。 ・教科書として適切な表現にする ため。 ・上記 p 167・13の訂正で削除し た内容を受ける表現を削除。 ・採録スペースの関係による。 ・部分採録のため。 ・教科書採録箇所以外の部分をさ した表現であるため。 ・教科書として適切な表現にする ため。

単元名	ページ・行	本文	原典	訂正理由
主張を把握する —身体と時間	p 178・11 p 179・12 p 180・3 p 180・4	自然の営みと人間の営みとが保障 自然の時間の破壊が、自然の存在や自然の生命力をそれは最終的には経営を破綻に導く。	自然の営みと人間の営みが保証 自然の時間の破壊が自然の存在や、自然の生命力をそれは最終的には経営の破綻に導かれる。	・並列関係を明確にするため。 ・原典の誤りと思われるため。 ・主述の関係を明確にするため。 ・教科書として適切な表現にするため。
主張を吟味する —経済社会と人間	p 184～191 p 193・1～5 p 193・9 p 194・2 p 194・7 p 194・8 p 194・12 p 195・7 p 197・4 p 200～208 p 201・13 p 201・15 p 204・15 p 205・10 p 206・12 p 207・8	〈原文の削除・修正〉 人類が置かれている……できるはずです。 『ロビンソン・クルーソー』 小説だからです。〈改行〉では、 そして、その中から また、彼は 彼の行動は、享楽どころか 行つことがあります。 たとえば、 〈小見出しの削除〉 速いからです。 一一〇番に掛けると 変わらないレベルにとどまっていたでしょう。 自分の知らない土地が 社会的合意が必要です。 完全な格差社会というものは、	〈大幅訂正のため略〉 〈採録箇所以前の内容をまとめ、文章の導入として補った〉 『ロビンソン・クルーソー漂流記』（一七一九年） 小説だからです。では、 そしてその中から、 また彼は、 彼の行動は享楽どころか、 〈このあと原文削除〉 〈このあと原文削除〉 〈このあと原文削除〉 一一〇番をまわすと 変わらない後進国レベルにとどまっていたでしょう。 自分が知らない土地が 〈このあと原文削除〉 もう一度言いますけれど、完全な格差社会というものは、	・筆者の監修のもと、分量の調整をするとともに、全般にわたって、教科書として適切な表記・表現となるように修正を加えた。 ・教科書として読みやすく、また、わかりやすくするため。 ・書名については一般に通用しているものとした。刊行年については読みやすさに配慮して脚注に回した。 ・わかりやすくするため。以下、原典にない改行については同様。 ・教科書として読みやすく、また、わかりやすくするため。 ・同上。 ・同上。 ・特に必要とは思われないため。 ・教科書採録箇所以外の部分をさした表現であるため。 ・評論教材としての学習上の配慮による。 ・採録スペースの関係による。 ・教科書として適切な表現にするため。 ・教育的配慮による。 ・教科書として適切な表現にするため。 ・採録スペースの関係による。 ・特に必要とは思われないため。
主張を比較する —環境と倫理	p 218～225 p 218・2 p 218・8 p 219・2 p 219・3 p 219・3 p 219・5 p 219・8 p 219・13 p 219・16 p 220・8～10 p 220・10 p 221・4 p 221・6 p 221・8 p 221・11 p 222・5	〈小見出しの削除〉 私たちには 出てくるので、詳しく知ることは 買ってしまいます。 環境問題に対して 難しいのは、 環境としての自然が 扱われます。 この捉え方には 手洗いやうがいなどの予防策に努めるのですが、 環境問題について……起きるの は、 “「環境」には「私」がない” 環境 (environment) ここでは 間のひとまとまりの 関係にある。 「あなたたち」にとっての	私たち 〈原文の一部削除に伴って、文章を整えた〉 〈このあと原文削除〉 ここでひとつ仮説ですが、こうして環境問題に対して 〈このあと原文削除〉 環境が 〈このあと原文・図削除〉 このとらえ方は 手洗いやうがいなどの予防策に努めます。予防策に努めるのですが、 〈原文の一部削除に伴って、文章を整えた〉 「「環境」には「私」がない」 環境 (Environment) 本書では あいだにあるひとまとまりの 〈このあと原文削除〉 「あなたたち」(地域Aのそれとは別の私たち)にとっての	・評論教材としての学習上の配慮による。 ・教科書として適切な表現にするため。 ・採録スペースの関係による。 ・採録スペースの関係による。 ・前項の削除に合わせて修正。 ・同上。 ・教科書として読みやすく、また、わかりやすくするため。 ・採録スペースの関係による。 ・教科書として適切な表現にするため。 ・煩雑さを避けるため。 ・採録スペースの関係による。 ・教科書として読みやすく、また、わかりやすくするため。 ・教科書として適切な表記に改めた。 ・部分採録のため。 ・教科書として読みやすく、また、わかりやすくするため。 ・採録スペースの関係による。 ・煩雑さを避けるため。

単元名	ページ・行	本文	原典	訂正理由
主張を比較する —環境と倫理	p 222・12 p 223・6 p 223・10 p 223・11 p 223・11 p 223・14 p 223・15 p 224・1 p 224・1 p 224・2 p 224・3 p 224・7 p 224・9 p 224・12 p 228・1 p 228・16 p 230・10 p 230・11 p 230・12 p 230・12 p 231・2 p 231・10 p 231・11 p 231・15 p 231・16 p 232・6、8 p 232・11 p 233・1 p 223・6 p 233・10 p 234・1 p 234・3 p 234・9 p 234・12 p 234・12 p 235・4 p 237～243	行動することが、 対症療法 できるようになる 「地球」という マクロな視点にまで 風土の特徴である 関係の 手触りのようなもの 感じられません。 環境問題においては、 定義し合うことが 補って もう一つ お互いに定義し合う いくのだ。 なってしまう。 認めているのである。 義務があるのである。 (小見出しの削除) 技術とより強く結びつくようになったことは 六十年以上前に 一九一一年に ある種の特別な金属のみに 近年、 拡大されようとしている。 マイクロメートル (ナノテクノロジー) の合成、 思われる。 かまわないとは思っている。 本来は、環境倫理や 非加熱製剤 サンフランシスコ地震で 「妥協」の上に 設計には 限度(建築基準)が 知ったうえで技術化への道を歩むべきことを、常に (原文の削除・修正)	行動する(=「何をまもり、つくり、つなげていきたいのか」を考え行動する)ことが、 対処療法 でるようになる 「地球」や「グローバル」という マクロ視点にまで その規模において風土の特徴である 関係が、 手触り感 感じられないのですが、<このあと原文削除> 環境問題や、SDGsのような全人類の開発目標という枠組みにおいては、 定義し合うこと(逆限定の関係)が 充足して 本章の最後にひとつ 逆限定の <このあと原文削除> なってしまうだろう。 <このあと原文削除> <このあと原文削除> 技術と強く結びついていることは 五〇年以前に 一〇〇年前の一九一一年に ある種の金属のみに 最近になって 拡大しようとしている。 ミクロン (ナノテクノロジー)、 <このあと原文削除> かまわないと思う。 本来は、その技術が環境倫理や 非加熱錠剤 サンフランシスコ地震のときに 「妥協」の上で 設計にも 限度が 知った上で、技術化への道を歩むべきことを常に (大幅訂正のため略)	・煩雑さを避けるため。 ・原典の誤りと思われるため。 ・同上。 ・煩雑さを避けるため。 ・教科書として適切な表現にするため。 ・煩雑さを避けるため。 ・教科書として適切な表現にするため。 ・同上。 ・煩雑さを避けるため。 ・教科書採録箇所以外の部分をさした表現であるため。 ・上記 p 221・11の訂正で削除した内容を受ける表現を削除。 ・教科書として適切な表現にするため。 ・部分採録のため。 ・上記 p 221・11の訂正で削除した内容を受ける表現を削除。 ・採録スペースの関係による。 ・筆者の意向による。 ・採録スペースの関係による。 ・同上。 ・評論教材としての学習上の配慮による。 ・筆者の意向による。 ・発表時と現在とで年数が合わなくなっているため。 ・同上。 ・筆者の意向による。 ・発表時から時間が経過しているため。 ・筆者の意向による。 ・教科書として適切な表現にするため。 ・筆者の意向による。 ・教科書採録箇所以外の部分をさした表現であるため。 ・筆者の意向による。 ・教科書として適切な表現にするため。 ・筆者の監修のもと、分量の調整をするとともに、全般にわたって、教科書として適切な表記・表現となるように修正を加えた。
合意を形成する —現代社会の課題	p 248・1 p 250・11 p 250・11 p 251・8 p 253・7 p 255～262	「折り返し点」を過ぎた「近代」 <私> 中心の近代 言います。 求めるのです。 これこそが (原文の削除・修正)	<このあと原文削除> <個人> や <私> 中心の近代 <このあと原文削除> <このあと原文削除> これこそが本書で考える (大幅訂正のため略)	・部分採録のため。 ・評論教材としての学習上の配慮による。 ・採録スペースの関係による。 ・部分採録のため、前項を受けた表現を削除。 ・部分採録のため。 ・筆者の監修のもと、分量の調整をするとともに、全般にわたって、教科書として適切な表記・表現となるように修正を加えた。

ウェブサイトのアドレスの掲載箇所一覧表

申 請 図 書			学習上の参考に供する情報			備 考
番号	ページ	種別	参照先	U R L	概要	
1	2	二次元コード		自社ページU R L	コンテンツリスト	別紙1添付
	2	URL		自社ページU R L	コンテンツリスト	別紙1添付
	表4	二次元コード		自社ページU R L	コンテンツリスト	別紙1添付
2	14	二次元コード		自社ページU R L	「何も知らない〈私〉」を知る 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙2-1添付
				自社ページU R L	「何も知らない〈私〉」を知る 語彙力ドリル 語句の意味	別紙2-2添付
3	22	二次元コード	NHK	https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022110034_00000	動画(NHK高校講座 「文の構成～スピーチ～」)	
4	26	二次元コード		自社ページU R L	「本当の自分」幻想 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙3-1添付
				自社ページU R L	「本当の自分」幻想 語彙力ドリル 語句の意味	別紙3-2添付
5	44	二次元コード	NHK	https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005320645_00000	動画(NHK for School 「プレゼンテーションのしかた」)	
				自社ページU R L	参考資料 太宰治『走れメロス』本文	別紙4添付
6	58	二次元コード		自社ページU R L	【対比】解説動画	別紙5添付
7	59	二次元コード		自社ページU R L	「間」の感覚 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙6-1添付
				自社ページU R L	「間」の感覚 語彙力ドリル 語句の意味	別紙6-2添付
8	64	二次元コード		自社ページU R L	【具体と抽象】解説動画	別紙7添付
9	65	二次元コード		自社ページU R L	日本語は世界をこのように捉える 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙8-1添付
				自社ページU R L	日本語は世界をこのように捉える 語彙力ドリル 語句の意味	別紙8-2添付
10	70	二次元コード		自社ページU R L	【事実と意見】 解説動画	別紙9添付
11	71	二次元コード		自社ページU R L	「私作り」とプライバシー 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙10-1添付
				自社ページU R L	「私作り」とプライバシー 語彙力ドリル 語句の意味	別紙10-2添付
12	76	二次元コード		自社ページU R L	水の東西 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙11-1添付
				自社ページU R L	水の東西 語彙力ドリル 語句の意味	別紙11-2添付
13	77	二次元コード		自社ページU R L	動画 (鹿おどし)	別紙12添付
14	82	二次元コード		自社ページU R L	水に関わる芸術や文化 解答例	別紙13添付
		龍安寺		http://www.ryoanji.jp/smph/index.html	参考リンク1 龍安寺	
		城南宮		https://www.jonangu.com/kyokusuinoutage.html	参考リンク2 城南宮	

申 請 図 書			学習上の参考に供する情報			備 考
番号	ページ	種別	参照先	U R L	概要	
			UNESCO世界遺産委員会	http://whc.unesco.org/ja/list/1413	参考リンク3 ヴィルヘルムスヘーエ城公園	
15	90	二次元コード	NHK	https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005180394_00000	動画(NHK for School 「アンケートの作り方」)	
			NHK	https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005180396_00000	動画(NHK for School 「分析のしかた」)	
16	94	二次元コード		自社ページU R L	ものとことば 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙14-1添付
				自社ページU R L	ものとことば 語彙力ドリル 語句の意味	別紙14-2添付
17	101	二次元コード		自社ページU R L	参考資料 『ことばと文化』(鈴木孝夫) 抜粋	別紙15添付
18	104	二次元コード		自社ページU R L	人工知能に未来を託せますか? 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙16-1添付
				自社ページU R L	人工知能に未来を託せますか? 語彙力ドリル 語句の意味	別紙16-2添付
19	112	二次元コード		自社ページU R L	現代の「世論操作」 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙17-1添付
				自社ページU R L	現代の「世論操作」 語彙力ドリル 語句の意味	別紙17-2添付
20	128	二次元コード	NHK	https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022110020_00000	動画 (NHK高校講座 「適切な表現」)	
			NHK	https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022110025_00000	動画 (NHK高校講座 「接続語」)	
			NHK	https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022110031_00000	動画 (NHK高校講座 「比喩表現」)	
21	134	二次元コード	NHK	https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022110042_00000#in=0&out=1200	動画 (NHK高校講座 「この説明で分かりますか?」)	
22	150	二次元コード		自社ページU R L	【主張と根拠】解説動画	別紙18添付
23	151	二次元コード		自社ページU R L	デザインの本意 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙19-1添付
				自社ページU R L	デザインの本意 語彙力ドリル 語句の意味	別紙19-2添付
24	155	二次元コード		自社ページU R L	【主張と反論】解説動画	別紙20添付
25	156	二次元コード		自社ページU R L	「動機の語彙論」という視点 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙21-1添付
				自社ページU R L	「動機の語彙論」という視点 語彙力ドリル 語句の意味	別紙21-2添付
26	161	二次元コード		自社ページU R L	【推論】解説動画	別紙22添付
27	162	二次元コード		自社ページU R L	コンピュータが作る俳句 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙23-1添付
				自社ページU R L	コンピュータが作る俳句 語彙力ドリル 語句の意味	別紙23-2添付
28	166	二次元コード		自社ページU R L	〈鏡〉という現象——装いとは何か 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙24-1添付
				自社ページU R L	〈鏡〉という現象——装いとは何か 語彙力ドリル 語句の意味	別紙24-2添付
29	174	二次元コード		自社ページU R L	不均等な時間 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙25-1添付

申 請 図 書			学習上の参考に供する情報			備 考
番号	ページ	種別	参照先	U R L	概要	
				自社ページU R L	不均等な時間 語彙力ドリル 語句の意味	別紙25-2添付
30	184	二次元コード		自社ページU R L	岩井克人が語る 「無」から「有」を生む貨幣 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙26-1添付
				自社ページU R L	岩井克人が語る 「無」から「有」を生む貨幣 語彙力ドリル 語句の意味	別紙26-2添付
31	192	二次元コード		自社ページU R L	参考資料 紙幣・硬貨とデジタル通貨の特徴	別紙27添付
32	193	二次元コード		自社ページU R L	ロビンソン的人間と自然 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙28-1添付
				自社ページU R L	ロビンソン的人間と自然 語彙力ドリル 語句の意味	別紙28-2添付
33	200	二次元コード		自社ページU R L	フェアな競争 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙29-1添付
				自社ページU R L	フェアな競争 語彙力ドリル 語句の意味	別紙29-2添付
34	209	二次元コード		自社ページU R L	参考資料 思想家・用語解説	別紙30添付
35	210	二次元コード	NHK	https://www2.nhk.or.jp/kokokoza/watch/?das_id=D0022110044_00000#in=0&out=1200	動画(NHK高校講座 「『意見』と『意見文』」)	
36	218	二次元コード		自社ページU R L	「環境」には「私」がいない 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙31-1添付
				自社ページU R L	「環境」には「私」がいない 語彙力ドリル 語句の意味	別紙31-2添付
37	227	二次元コード		自社ページU R L	「文化」としての科学 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙32-1添付
				自社ページU R L	「文化」としての科学 語彙力ドリル 語句の意味	別紙32-2添付
38	237	二次元コード		自社ページU R L	生と死が創るもの 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙33-1添付
				自社ページU R L	生と死が創るもの 語彙力ドリル 語句の意味	別紙33-2添付
39	244	二次元コード		自社ページU R L	参考資料 柳沢桂子 主な経歴	別紙34-1添付
				自社ページU R L	参考資料 柳沢桂子 短歌26首	別紙34-2添付
40	248	二次元コード		自社ページU R L	〈私〉時代のデモクラシー 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙35-1添付
				自社ページU R L	〈私〉時代のデモクラシー 語彙力ドリル 語句の意味	別紙35-2添付
41	255	二次元コード		自社ページU R L	リスクを考える——「みんなで決める」はなぜ重要か 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙36-1添付
				自社ページU R L	リスクを考える——「みんなで決める」はなぜ重要か 語彙力ドリル 語句の意味	別紙36-2添付
42	276	二次元コード	NHK	https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005180417_00000	動画(NHK for School 「議論のまとめ方」)	
43	293	二次元コード		自社ページU R L	常用漢字表	別紙37添付
44	294	二次元コード		自社ページU R L	評論キーワード一覧	別紙38添付

社名入る 教科書ウェブ
106-235 (書名入る)

106-235 (書名入る) 着作権について

- 考えを組み立てる—自己と他者
- 効果的に伝える
- 論理の展開を捉える
- 情報を集める—言葉と文化
- 情報を活用する—科学技術とメディア
- 相手を説得する
- 根拠を示して主張する
- 主張を把握する—身体と時間
- 主張を吟味する—経済社会と人間
- 主張を比較する—環境と倫理
- 合意を形成する—現代社会の課題
- 資料編

別紙 2-1

1問 / 5問

解答

基準

感覚

距離

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。
物事の良し悪しを決める尺度を持つ。

別紙 2-2

1問 / 6問

解答を見る

根幹
〈例文〉 生命科学の根幹をなす研究。

次の表現の意味を答えよう。

別紙 3-1

1問 / 5問

解答

話の題材

伝承法

語の調子

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。
この物語の語り口は独特だ。

別紙 3-2

1問 / 6問

解答を見る

饑舌うきじやく
〈例文〉 寂黙な伯父はお酒を飲むと饑舌うきじやくになる。

次の表現の意味を答えよう。

走れメロス

太宰 治

メロスは激怒した。必ず、かの邪知暴虐の王を除かなければならぬと決意した。メロスには政治がわからぬ。メロスは、村の牧人である。笛を吹き、羊と遊んで暮らしてきた。けれども邪悪に対しては、人一倍に敏感であった。今日未明メロスは村を出発し、野を越え山越え、十里離れたこのシラクスの町にやってきた。メロスには父も、母もない。女房もない。十六の、内気な妹と二人暮らしだ。この妹は、村のある律儀な一牧人を、近々、花婿として迎えることになっていた。結婚式も間近なのである。メロスは、それゆえ、花嫁の衣装やら祝宴のごちそうやらを買いに、はるばる町にやってきたのだ。まず、その品々を買い集め、それから都の大路をぶらぶら歩いた。メロスには竹馬の友があった。セリヌンティウスである。今はこのシラクスの町で、石工をしている。その友を、これから訪ねてみるつもりなのだ。久しく会わなかつたのだから、訪ねていくのが楽しみである。歩いているうちにメロスは、町の様子を怪しく思った。ひっそりしている。もうすでに日も落ちて、町の暗いのは当たり前だが、けれども、何だか、夜のせいばかりではなく、町全体が、やけに寂しい。のんきなメロスも、だんだん不安になってきた。道で会つた若い衆を捕まえて、何かあつたのか、二年前にこの町に来たときは、夜でも皆が歌を歌つて、町はにぎやかであったはずだが、と質問した。若い衆は、首を振つて答えなかつた。しばらく歩いて老爺に会い、今度はもっと、語勢を強くして質問した。老爺は答えなかつた。メロスは両手で老爺の体を揺すぶつて質問を重ねた。老爺は、辺りをはばかる低声で、わずか答えた。

「王様は、人を殺します。」

「なぜ殺すのだ。」

「悪心を抱いている、というのですが、誰もそんな、悪心を持つてはおりませぬ。」

「たくさんの人を殺したのか。」

「はい、初めは王様の妹婿様を。それから、ご自身のお世継ぎを。それから、妹様を。それから、妹様のお子様を。それから、皇后様を。それから、賢臣のアレキス様を。」

「驚いた。国王は乱心か。」

「いいえ、乱心ではございません。人を、信ずることができぬ、というのです。このごろは、臣下の心をも、お疑いになり、少しく派手な暮らしをしている者には、人質一人ずつ差し出すことを命じております。ご命令を拒めば十字架にかけられて、殺されます。今日は、六人殺されました。」

聞いて、メロスは激怒した。「あきれた王だ。生かしておけぬ。」

メロスは、単純な男であった。買い物を、背負つたままで、のそのそ王城に入つていった。たちまち彼は、巡邏の警吏に捕縛された。調べられて、メロスの懷中からは短剣が出



てきたので、騒ぎが大きくなってしまった。メロスは、王の前に引き出された。

「この短刀で何をするつもりであったか。『え！』暴君ディオニスは静かに、けれども威厳をもって問い合わせた。その王の顔は蒼白そらはくで、眉間のしわは、刻み込まれたように深かつた。

「町を暴君の手から救うのだ。」とメロスは悪びれずに答えた。

「おまえがか？」王は、憫笑びんしようした。「しかたのないやつじや。おまえには、わしの孤独がわからぬ。」

「言うな！」とメロスは、いきり立はんぱくて反駁した。「人の心を疑うのは、最も恥ずべき悪徳だ。王は、民の忠誠をさえ疑つておられる。」

「疑うのが、正当の心構えなのだと、わしに教えてくれたのは、おまえたちだ。人の心は、当てにならない。人間は、もともと私欲の塊さ。信じては、ならぬ。」暴君は落ち着いてつぶやき、ほっとため息をついた。「わしだって、平和を望んでいるのだが。」

「何のための平和だ。自分の地位を守るためか。」今度はメロスが嘲笑した。「罪のない人を殺して、何が平和だ。」

「黙れ。」王は、さっと顔を上げて報いた。「口では、どんな清らかなことでも言える。わしには、人はらわたの奥底が見え透いてならぬ。おまえだって、今に、はりつけになつてから、泣いてわびたつて聞かぬぞ。」

「ああ、王は利口だ。うぬぼれているがよい。私は、ちゃんと死ぬる覚悟でいるのに。命乞いなど決してしない。ただ、——」と言いかけて、メロスは足もとに視線を落とし瞬時ためらい、「ただ、私に情けをかけたいつもりなら、処刑までに三日間の日限を与えてください。たった一人の妹に、亭主を持たせてやりたいのです。三日のうちに、私は村で結婚式を挙げさせ、必ず、ここへ帰ってきます。」

「ばかな。」と暴君は、しわがれた声で低く笑つた。「どんでもない嘘うそを言つわい。逃がした小鳥が帰つてくると言つのか。」

「そうです。帰つてくるのです。」メロスは必死で言い張つた。「私は約束を守ります。私を、三日間だけ許してください。妹が、私の帰りを待つてているのだ。そんなに私を信じられないならば、よろしい、この町にセリヌンティウスという石工がいます。私の無二の友人だ。あれを、人質としてここに置いていこう。私が逃げてしまつて、三日目の日暮れまで、ここに帰つてこなかつたら、あの友人を絞め殺してください。頼む。そうしてください。」

それを聞いて王は、残虐な気持ちで、そつとほくそ笑んだ。生意気なことを言つわい。どうせ帰つてこないに決まっている。この嘘つきにだまされたふりして、放してやるものもおもしろい。そうして身代わりの男を、三日目に殺してやるのも気味がいい。人は、これだから信じられぬと、わしは悲しい顔して、その身代わりの男を磔刑たがいに処してやるのだ。世の中の、正直者とかいうやつばらにうんと見せつけてやりたいのものさ。



「願いを、聞いた。その身代わりを呼ぶがよい。三日目には日没までに帰ってこい。

れたら、その身代わりを、きっと殺すぞ。ちょっと遅れてくるがいい。おまえの罪は、永遠に許してやろうぞ。」

「なに、何をおっしゃる。」

「はは。命が大事だったら、遅れてこい。おまえの心は、わかっているぞ。」

メロスは悔しく、地団駄踏んだ。ものも言いたくなくなった。

竹馬の友、セリヌンティウスは、深夜、王城に召された。暴君ディオニスの面前で、よき友とよき友は、二年ぶりで相会うた。メロスは、友に一切の事情を語った。セリヌンティウスは無言でうなずき、メロスをひしと抱き締めた。友と友の間は、それでよかつた。セリヌンティウスは、縄打たれた。メロスは、すぐに出発した。初夏、満天の星である。

メロスはその夜、一睡もせずに十里の道を急ぎに急いで、村へ到着したのは、明くる日の午前、日はすでに高く昇って、村たちは野に出て仕事を始めていた。メロスの十六の妹も、今日は兄の代わりに羊群の番をしていた。よろめいて歩いてくる兄の、疲労困憊の姿を見つけて驚いた。そうして、うるさく兄に質問を浴びせた。

「何でもない。」メロスは無理に笑おうと努めた。「町に用事を残してきた。またすぐ町に行かなければならぬ。明日、おまえの結婚式を挙げる。早いほうがよからう。」

妹は頬を赤らめた。

「うれしいか。きれいな衣装も買ってきた。さあ、これから行って、村の人たちに知らせてこい。結婚式は、明日だと。」

メロスは、また、よろよろと歩きだし、家へ帰つて神々の祭壇を飾り、祝宴の席を調え、間もなく床に倒れ伏し、呼吸もせぬくらいの深い眠りに落ちてしまった。

目が覚めたのは夜だった。メロスは起きてすぐ、花婿の家を訪れた。そして、少し事情があるから、結婚式を明日にしてくれ、と頼んだ。婿の牧人は驚き、それはいけない、こちらにはまだ何の支度もできていない、ぶどうの季節まで待ってくれ、と答えた。メロスは、待つことはできぬ、どうか明日にしてくれたまえ、とさらに押して頼んだ。婿の牧人も頑強であった。なかなか承諾してくれない。夜明けまで議論を続けて、やっと、どうにか婿をなだめ、すかして、説き伏せた。結婚式は、真昼に行われた。新郎新婦の、神々への宣誓が済んだころ、黒雲が空を覆い、ぱつりぱつり雨が降りだし、やがて車軸を流すような大雨となつた。祝宴に列席していた村たちは、何か不吉なものを感じたが、それでも、めいめい気持ちを引き立て、狭い家中で、むんむん蒸し暑いのもこらえ、陽気に歌を歌い、手を打つた。メロスも、満面に喜色をたたえ、しばらくは、王とのあの約束をさえ忘れていた。祝宴は、夜に入つていよいよ乱れ華やかになり、人々は、外の豪雨を全く気になくなつた。メロスは、一生このままここにいたい、と思つた。このよい人たちと生涯暮らしていきたいと願つたが、今は、自分の体で、自分のものではない。ままならぬことである。メロスは、我が身にむち打ち、ついに出発を決意した。明日の日没までに



は、まだ十分の時がある。ちょっとひと眠りして、それからすぐに出発しよう、と考えた。そのころには、雨も小降りになつていいよう。少しでも長くこの家にぐずぐずとどまつていたかった。メロスほどの男にも、やはり未練の情というものはある。今宵呆然、歓喜に酔つているらしい花嫁に近寄り、

「おめでとう。私は疲れてしまつたから、ちょっと御免こうむつて眠りたい。目が覚めたら、すぐに町に出かける。大切な用事があるので。私がいなくても、もうおまえには優しい亭主があるのでだから、決して寂しいことはない。おまえの兄の、いちばん嫌いなもののは、人を疑うことと、それから、嘘をつくことだ。おまえも、それは、知つているね。亭主との間に、どんな秘密でも作つてはならぬ。おまえに言いたいのは、それだけだ。おまえの兄は、たぶん偉い男なのだから、おまえもその誇りを持つていろ。」

花嫁は、夢見心地でうなずいた。メロスは、それから花嫁の肩をたたいて、

「支度のないのはお互い様さ。私の家にも、宝といつては、妹と羊だけだ。ほかには、何もない。全部あげよう。もう一つ、メロスの弟になったことを誇ってくれ。」

花婿はもみ手して、照れていた。メロスは笑つて村人たちにも会釈して、宴席から立ち去り、羊小屋に潜り込んで、死んだように深く眠つた。

目が覚めたのは明くる日の薄明のころである。メロスは跳ね起き、南無三、寝過ぎしたか、いや、まだまだ大丈夫、これからすぐに出発すれば、約束の刻限までには十分間に合う。今日はぜひとも、あの王に、人の信実の存するところを見せてやろう。そうして笑つてはりつけの台に登つてやる。メロスは、悠々と身支度を始めた。雨も、幾分小降りになつてゐる様子である。身支度はできた。さて、メロスは、ぶるんと両腕を大きく振つて、雨中、矢のごとく走り出た。

私は、今宵、殺される。殺されるために走るのだ。身代わりの友を救うために走るのだ。王の奸佞邪知を打ち破るために走るのだ。走らなければならぬ。そうして、私は殺される。若いときから名誉を守れ。さらば、ふるさと。若いメロスは、つらかつた。幾度か、立ち止まりそうになつた。えい、えいと大声あげて自身を叱りながら走つた。村を出て、野を横切り、森をくぐり抜け、隣村に着いたころには、雨もやみ、日は高く昇つて、そろそろ暑くなつてきた。メロスは額の汗を拳で払い、ここまで来れば大丈夫、もはや故郷への未練はない。妹たちは、きっとよい夫婦になるだろう。私には、今、何の気がかりもないはずだ。まつすぐに王城に行き着けば、それでよいのだ。そんなに急ぐ必要もない。ゆっくり歩こう、と持ち前ののんきさを取り返し、好きな小歌をいい声で歌いだし始めた。ぶらぶら歩いて二里行き三里行き、そろそろ全里程の半ばに到達したころ、降つて湧いた災難、メロスの足は、はたと、止まつた。見よ、前方の川を。昨日の豪雨で山の水源地は氾濫し、濁流どうどうと下流に集まり、猛勢一挙に橋を破壊し、どうどうと響きをあげる激流が、木つ端微塵に橋桁を跳ね飛ばしていた。彼は茫然と、立ちすくんだ。あちこちと眺め回し、また、声を限りに呼び立ててみたが、繫舟は残らず波にさらわれて影なく、渡し守の姿も見えない。流れはいよいよ、膨れ上がり、海のようになつてゐる。メロスは川岸にうずくまり、男泣きに泣きながらゼウスに手を上げて哀願した。「ああ、鎮め

たまえ、荒れ狂う流れを！ 時は刻々に過ぎていきます。太陽もすでに真昼時です。あれが沈んてしまわぬうちに、王城に行き着くことができなかつたら、あのよい友達が、私のために死ぬのです。』

濁流は、メロスの叫びをせせら笑うごとく、ますます激しく躍り狂う。波は波をのみ、巻き、あおり立て、そうして時は、刻一刻と消えていく。今はメロスも覚悟した。泳ぎきるよりほかにない。ああ、神々も照覧あれ！ 濁流にも負けぬ愛と誠の偉大な力を、今こそ發揮してみせる。メロスは、ざんぶと流れに飛び込み、百匹の大蛇のようにのたうち荒れ狂う波を相手に、必死の闘争を開始した。満身の力を腕に込めて、押し寄せ渦巻き引きずる流れを、何のこれしきとかき分けかき分け、獅子奮迅（しし ふんそん）の人の子の姿には、神も哀れと思つたか、ついに憐愍（れんびん）を垂れてくれた。押し流されつつも、見事、対岸の樹木の幹に、すがりつくことができたのである。ありがたい。メロスは馬のように大きな胴震いを一つして、すぐにはまた先を急いだ。一刻といえども、無駄にはできない。日はすでに西に傾きかけている。せいぜい荒い呼吸をしながら岬を登り、登りきって、ほっとしたとき、突然、目の前に一隊の山賊が躍り出た。

「待て。」

「何をするのだ。私は日の沈まぬうちに王城へ行かなければならぬ。放せ。」

「どっこい放さぬ。持ち物全部を置いていけ。」

「私には命のほかには何もない。その、たつた一つの命も、これから王にくれてやるのだ。」

「その、命が欲しいのだ。」

「さては、王の命令で、ここで私を待ち伏せしていたのだな。」

山賊たちは、ものも言わず一斉に棍棒（こんぱう）を振り上げた。メロスはひよいと、体を折り曲げ、飛鳥のことく身近の一人に襲いかかり、その棍棒を奪い取つて、

「気の毒だが正義のためだ！」と猛然一撃、たちまち、三人を殴り倒し、残る者のひるむ隙に、さっさと走つて岬を下つた。一気に岬を駆け降りたが、さすがに疲労し、折から午後の灼熱（しゃくねつ）の太陽がまともに、かゝと照ってきて、メロスは幾度となく眩暈（めまい）を感じ、これではならぬ、と氣を取り直しては、よろよろ一、三歩歩いて、ついに、がくりと膝を折つた。立ち上がることができぬのだ。天を仰いで、悔し泣きに泣きだした。ああ、あ、濁流を泳ぎきり、山賊を三人も撃ち倒し草駄天（いだてん）、ここまで突破してきたメロスよ。眞の勇者、メロスよ。今、ここで、疲れきつて動けなくなるとは情けない。愛する友は、おまえを信じたばかりに、やがて殺されなければならぬ。おまえは、希代の不信の人間、まさしく王の思う壺（つぼ）だぞ、と自分を叱つてみるのだが、全身萎えて、もはや芋虫ほどにも前進かなわぬ。路傍の草原にごろりと寝転がつた。身体疲労すれば、精神もともにやられる。もう、どうでもいいという、勇者に不似合いなふくてくされた根性が、心の隅に巣くつた。私は、これほど努力したのだ。約束を破る心は、微塵もなかつた。神も照覧、私は精いっぱいに努めてきたのだ。動けなくなるまで走つてきたのだ。私は不信の徒ではない。ああ、でき

ることなら私の胸を断ち割って、真紅の心臓をお目にかけたい。愛と信実の血液だけで動いているこの心臓を見せてやりたい。けれども私は、この大事なときに、精も根も尽きたのだ。私は、よくよく不幸な男だ。私は、きっと笑われる。私の一家も笑われる。私は友を欺いた。中途で倒れるのは、初めから何もないと同じことだ。ああ、もう、どうでもいい。これが、私の定まった運命なのかもしれない。セリヌンティウスよ、許してくれ。



君は、いつでも私を信じた。私も君を、欺かなかつた。私たちには、本当に友と友であつたのだ。一度だつて、暗い疑惑の雲を、お互に胸に宿したことはなかつた。今だつて、君は私を無心に待つてゐるだろ。ああ、待つてゐるだろ。ありがとう、セリヌンティウス。よくも私を信じてくれた。それを思えば、たまらない。友と友の間の信実は、この世でいちばん誇るべき宝なのだから。セリヌンティウス、私は走つたのだ。君を欺くつもりは、微塵もなかつた。信じてくれ！ 私は急ぎに急いでここまで来たのだ。渦流を突破した。山賊の囲みからも、するりと抜けで一気に峠を駆け降りてきたのだ。私だから、できたのだよ。ああ、このうえ、私に望みたもうな。放つておいてくれ。どうでもいいのだ。私は負けたのだ。だらしがない。笑つてくれ。王は私に、ちょっと遅れてこい、と耳打ちした。遅れたら、身代わりを殺して、私を助けてくれると約束した。私は王の卑劣を憎んだ。けれども、今になつてみると、私は王の言うままになつてゐる。私は遅れていくだろ。王は、ひとり合点して私を笑い、そうして事もなく私を放免するだろ。そうくなつたら、私は、死ぬよりつらい。私は、永遠に裏切り者だ。地上で最も、不名誉の人種だ。セリヌンティウスよ、私も死ぬぞ。君といつしょに死なせてくれ。君だけは私を信じてくれるにちがいない。いや、それも私の、ひとりよがりか？ ああ、もういつそ、悪徳者として生き延びてやろうか。村には私の家がある。羊もいる。妹夫婦は、まさか私を村から追い出すようなことはしないだろ。正義だの、信実だの、愛だの、考えてみれば、くだらない。人を殺して自分が生きる。それが人間世界の定法ではなかつたか。ああ、何もかも、ばかばかしい。私は、醜い裏切り者だ。どうとも、勝手にするがよい。やんぬるかな。――四肢を投げ出して、うとうと、まどろんでしまつた。

ふと耳に、せんせん、水の流れる音が聞こえた。そつと頭をもたげ、息をのんで耳を澄ました。すぐ足もとで、水が流れているらしい。よろよろ起き上がって、見ると、岩の裂け目からこんこんと、何か小さくささやきながら清水が湧き出でているのである。その泉に吸い込まれるようにメロスは身をかがめた。水を両手でくつて、一口飲んだ。ほうと長いため息が出て、夢から覚めたような気がした。歩ける。行こう。肉体の疲労回復とともに、わずかながら希望が生まれた。義務遂行の希望である。我が身を殺して、名譽を守る希望である。斜陽は赤い光を、木々の葉に投じ、葉も枝も燃えるばかりに輝いている。日没までには、まだ間があるので。少しも疑わず、静かに期待してくれている人があるのだ。私は、信じられている。私の命なぞは、問題ではない。死んでおわび、などと氣のいいことは言っておられぬ。私は、信頼に報いなければならぬ。

今はただその一事だ。走れ！ メロス。

私は信頼されている。私は信頼されている。先刻の、あの悪魔のささやきは、あれは夢だ。悪い夢だ。忘れてしまえ。五臓が疲れているときは、ふいとあんな悪い夢を見るものだ。メロス、おまえの恥ではない。やはり、おまえは眞の勇者だ。再び立つて走れるよう

になつたではないか。ありがたい！私は正義の士として死ぬことができるぞ。ああ、口が沈む。ずんずん沈む。待つてくれ、ゼウスよ。私は生まれたときから正直な男であった。正直な男のままにして死なせてください。

道行く人を押しのけ、跳ね飛ばし、メロスは黒い風のように走った。野原で酒宴の、その宴席の真っただ中を駆け抜け、酒宴の人たちを仰天させ、犬を蹴飛ばし、小川を飛び越え、少しづつ沈んでゆく太陽の、十倍も早く走った。一団の旅人とさつと擦れ違った瞬間、不吉な会話を小耳に挟んだ。「今ごろは、あの男も、はりつけにかかるよ。」ああ、その男、その男のために私は、今こんなに走っているのだ。その男を死なせてはならない。急げ、メロス。遅れてはならぬ。愛と誠の力を、今こそ知らせてやるがよい。風体なんかは、どうでもいい。メロスは、今は、ほとんど全裸体であった。呼吸もできず、二度、三度、口から血が噴き出た。見える。見るか向こうに小さく、シラクスの町の塔楼が見える。塔楼は、夕日を受けてきらきら光っている。

「ああ、メロス様。」うめくような声が、風とともに聞こえた。

「誰だ。」メロスは走りながら尋ねた。

「フィロストラトスでございます。あなたの友達セリヌンティウス様の弟子でございます。」その若い石工も、メロスの後について走りながら叫んだ。「もう、駄目でござります。無駄でございます。走るのは、やめてください。もう、あの方をお助けになることはできません。」

「いや、まだ日は沈まぬ。」

「ちょうど今、あの方が死刑になるどころです。ああ、あなたは遅かった。お恨み申します。ほんの少し、もうちょっとでも、早かつたなら！」

「いや、まだ日は沈まぬ。」メロスは胸の張り裂ける思いで、赤く大きい夕日ばかりを見つめていた。走るよりほかはない。

「やめてください。走るのは、やめてください。今は自分のお命が大事です。あの方は、あなたを信じておりました。刑場に引き出されても、平氣でいました。王様が、さんざんの方をからかっても、メロスは来ます、とだけ答え、強い信念を持ち続けている様子でございました。」

「それだから、走るのは、信じられているから走るのだ。間に合う、間に合わぬは問題でないのだ。人の命も問題でないのだ。私は、何だか、もっと恐ろしく大きいもののために走っているのだ。ついてこい！ フィロストラトス。」

「ああ、あなたは気が狂つたか。それでは、うんと走るがいい。ひょっとしたら、間に合わぬものもない。走るがいい。」

言うにや及ぶ。まだ日は沈まぬ。最後の死力を尽くして、メロスは走った。メロスの頭は、空っぽだ。何一つ考えていない。ただ、訳のわからぬ大きな力に引きずられて走った。日は、ゆらゆら地平線に没し、まさに最後の一片の残光も、消えようとしたとき、メ



ロスは疾風のごとく刑場に突入した。間に合った。



「待て。その人を殺してはならぬ。メロスが帰ってきた。約束のとおり、今、帰ってきた。」と大声で刑場の群衆に向かって叫んだつもりであったが、喉が潰れてしわがれた声がかすかに出たばかり、群衆は、一人として彼の到着に気がつかない。すでにはりつけの柱が高々と立てられ、縄を打たれたセリヌンティウスは、徐々につり上げられてゆく。メロスはそれを目撃して最後の勇、先刻、潮流を泳いだように群衆をかき分け、かき分け、

「私だ、刑吏！殺されるのは、私だ。メロスだ。彼を人質にした私は、ここにいる！」と、かすれた声で精いっぱいに叫びながら、ついにはりつけ台に登り、つり上げられてゆく友の両足に、かじりついた。群衆は、どよめいた。あっぱれ。許せ、と日々にわめいた。セリヌンティウスの縄は、ほどかれたのである。

「セリヌンティウス。」メロスは目に涙を浮かべて言つた。「私を殴れ。力いっぱいに頬を殴れ。私は、途中で一度、悪い夢を見た。君がもし私を殴ってくれなかつたら、私は君と抱擁する資格さえないので。殴れ。」

セリヌンティウスは、すべてを察した様子でうなざき、刑場いっぱいに鳴り響くほど音高くメロスの右頬を殴つた。殴つてから優しくほほえみ、

「メロス、私を殴れ。同じくらい音高く私の頬を殴れ。私はこの三日間、たった一度だけ、ちらと君を疑つた。生まれて、初めて君を疑つた。君が私を殴つてくれなければ、私は君と抱擁できない。」

メロスは腕にうなりをつけてセリヌンティウスの頬を殴つた。

「ありがとうございます、友よ。」二人同時に言い、ひしと抱き合い、それからうれしく泣きにおい声を放つて泣いた。

群衆の中からも、歎歎^{きき}の声が聞こえた。暴君ディオニスは、群衆の背後から二人のさまを、まじまじと見つめていたが、やがて静かに二人に近づき、顔を赤らめて、こう言った。

「おまえらの望みはかなつたぞ。おまえらは、わしの心に勝つたのだ。信実とは、決して空虚な妄想ではなかつた。どうか、わしをも仲間に入れてくれまいか。どうか、わしの願いを聞き入れて、おまえらの仲間の一人にしてほしい。」

どつと群衆の間に、歎声が起こつた。

「万歳、王様万歳。」

一人の少女が、緋のマントをメロスにささげた。メロスは、まごついた。よき友は、気を利かせて教えてやつた。

「メロス、君は、真っ裸じゃないか。早くそのマントを着るがいい。このかわいい娘さんは、メロスの裸体を、皆に見られるのが、たまらなく悔しいのだ。」

勇者は、ひどく赤面した。

別紙 5

参考動画：「対比」解説動画

106-235 (書名入る)

【対比】解説動画

参考動画：「対比」解説

対比を見つけて出すポイント

①共通の観点
○海は広いが、ゲームは楽しい。
×海は広いが、池は狭い。

②接続表現
「しかし……」
「一方……」
「それに対して……」

対比…

0:00 / 2:17

106-235 (書名入る) / 論理の展開を捉える / 【対比】 / 【対比】解説動画

別紙 6-1

1問 / 5問

解答

規模

効果

責任

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。
スケールの大きな仕事。

◀ ▶

別紙 6-2

1問 / 7問

参考動画：「風土」解説動画

参考動画：「風土」解説

次の表現の意味を読んでよろしく。

風土
(例文)
温潤な風土が日本文学を形成した。

解答を見る

106-235 (書名入る) / 論理の展開を捉える / 【風土】 / 【風土】解説動画

別紙 7

106-235 (書名入る)

【具体と抽象】解説動画

参考動画：「具体と抽象」解説

抽象
「リンゴ」
(という言葉・概念)

具体
赤いリンゴ
緑のリンゴ

具体的と抽象的な表現の関係性

◀ ▶

106-235 (書名入る) / 論理の展開を捉える / 【具体と抽象】 / 【具体と抽象】解説動画

別紙 8-1

1問 / 6問

解答

- -
 -
- 緻密 厳格 詳細

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。
厳密に使い分ける。

次の表現の意味を答えてみる。
捉える
(例文) 抽象的な概念を的確に捉える。

別紙 8-2

1問 / 7問

解答を見る

別紙 9

106-235 (書名入る)
106-235 (書名入る)

【事実と意見】解説動画

参考動画：「事実と意見」解説

意見…ある事柄に対する考え方
(例) 「十分な睡眠をとるべきだ」「日本の自然は美しい」

事実…実際に起こうた事柄
客観的に確かめられる情報
(例) 「地球は太陽の周りを転している」



解答

- -
 -
- あばれる あばく あれる

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。
私生活を暴露される。

別紙 10-1

1問 / 6問

別紙 10-2

別紙 10-2

1問 / 7問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
プライバシー
〈例文〉 プライバシーの権利が脅かされている。

解答

- 象徴
 ○ 発露
 ○ 最高峰

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。
それは芸術の極致であった。

別紙 11-1

1問 / 5問

別紙 11-2

1問 / 7問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
徒労
〈例文〉 相手が不在で、訪問は徒労に終わった。

社名入る 教科書ウェブ
106-235 (書名入る)

『水の東西』 鹿おどしの動画

参考動画：鹿おどし



106-235 (書名入る) / 情報を集める—集束と文化 / 水の東西 (山崎正和) / 『水の東西』 鹿おどしの動画

別紙 12

水に関する芸術や文化の例



枯山水

枯山水は日本庭園の様式の一つであり、平らな土地に白砂が敷き詰められ、大きめの石が複数個配置されていることが多い。白砂には器具により直線や曲線が描かれる（箒目）ことがある。植栽や苔が置かれることもあるが、川や池などは作られない。

枯山水は、水を用いずに水のある自然の風景を表現していることが特徴である。白砂は水面に見立てられる。箒目には複数の種類があり、水流や波、その大きさや荒さを想像することができる。大きめの石は、たとえば縦長の石と箒目で滝から流れる水を想像させるなど、その組み合わせや配置によって山岳などの自然物や禅宗の概念を表現しているとされる。中には作庭のモチーフや意図が明確にされていない庭もあるが、その分、鑑賞者に自由にイメージを想起させられる側面があるとも言える。このような庭の代表的なものに、龍安寺の庭園がある。（※参考リンク1）

鹿おどしや噴水は実際の水を用いて水の流れを感じさせる仕掛けであるが、枯山水は、水を使わない人工の庭であるにもかかわらず、自然の風景にある水の流れを想像させることに魅力があると言える。

曲水の宴

旧暦三月最初の巳の日（上巳）に、宮廷や貴族の屋敷などで行われた行事の一つ。その起源は中国の周公の時代に始まったとも秦の昭襄王の時代とも伝えられる。上巳に水辺で禊（罪や穢れを落とし自らを清らかにすることを目的とした水浴行為）を行う風習が元となり、のちに禊とともに盆を水に流して宴を行うようになった。東晋の王羲之の「蘭亭序」によると、三五三年に王羲之が「曲水」（曲がりくねった水路）を作つて人々を招き、そこに盆を浮かべて酒を飲み、詩を詠じたとある。韓国にも曲水の宴に用いられたと推定される遺構（鮑石亭）が残っている。

曲水の宴は中国から日本に伝来し、奈良時代にはすでに行事として定着していた。菅原道真は曲水の宴を漢詩に詠み込んでおり、藤原道長は私邸で貴族を集めて大規模な曲水の宴を主催した。現在曲水の宴として行われる行事は、曲水に沿つて参加者が並び、上流から盆が流され、和歌を詠んだ者が盆内の酒を飲むという形になっていることが多い。（※参考リンク2）

時代とともに、曲水の宴の行事としての形態や規模は変化したが、水のそばで行われる風習であることは変わらない。宮中行事の雅な雰囲気を窺わせる行事として、また体を清め無病息災を願う人々の思いを継承するものとして、現代にも受け継がれている。

ヴィルヘルムスヘーエ城公園

ドイツのヘッセン州カッセルにある城とその庭園。城は美術館となつており、バロックとロマン主義時代の美学を伝える庭園は公園として公開されている。二〇一三年にユネスコの世界遺産に登録された。（※参考リンク3）

この庭園では夏季に週二回、通称「水の芸術」と呼ばれるイベントが催される。時間になると、貯水池から供給された七五万リットル以上の水が丘陵地の上に立つヘラクレス像のもとから流れ出し、三五〇メートルの多段式の滝や、水道橋、通称「悪魔の橋」の下から流れ落ちる高さ二八メートルの滝などを経由し、最後は間欠泉のような噴水となつて高さ五〇メートルまで吹き上がる。水の流れは総延長二キロ以上に及ぶ。

この壮大な仕掛けを含む庭園の造営は一六八九年から始まり、十九世紀にいたるまで続けられた。噴水の原理は、三百年以上前に作られてから現在まで変わっていない。ポンプなどは使用されず、流れ落ちた水の水圧だけで動く仕組みである。ヘラクレス像に正対すると、水路と噴水が左右対称に幾何学的に作られているのがわかる。噴水を含むヴィルヘルムスヘーエ城公園一帯は、建築学的・工学的に卓越した業績として評価されている。

ヴィルヘルムスヘーエ城公園は、水を用いた庭園藝術の粹を集めたものと言える。その魅力の一つは、自然の力と当時の最高峰の技術の融合にあるだろう。

別紙 14-1

1問 / 5問

解答

- 最大
- 調和
- 合計

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。
総和を求めよ。

1問 / 7問

別紙 14-2

次の表現の意味を答えよう。

多岐にわたる

〈例文〉 博士の研究内容は多岐にわたっていふ。

解答を見る

言語的相対主義

イギリスの有名な小説家D・H・ローレンスに『Prelude』という短編がある。その中にある女が、紅茶を入れる描写が出ている。

…… and catching up the blue enamelled teapot, [she] dropped into it a handful of tea from the caddy, and poured on the water. 〈彼女はブルーのほうとうのティーポットを取り上げ、缶からてのひらに出したお茶を、ポットに投げ入れ、その上に水を注ぎ入れた。〉

あまりイギリスの生活習慣に詳しくない人ならば、所変われば品変わるで、イギリスでは、お茶を水で出すこともあるのかと思うかもしれない。あるいは英語で、お湯はhot waterだと学校で習つたとのある人は、waterの前にhotが脱落したのではないかと疑うかもしれない。ところがどちらの解釈も正しくないのである。

イギリス人がお茶好きなことは、世界的に有名である。しかも彼らはお茶の入れ方がとてもうるさい。やかんをグラグラに煮立たせて、本当の熱湯でお茶を入れることを要求する。それだけでも満足しない人がいて、やかんをポットを持っていくな、ポットをやかんに持つていけどさえ言う。しかもポットは、あらかじめカップ一杯の熱湯で温めておくのが常識である。だから水でお茶を入れることなど、全くあり得ない。

こののような事情が、次のアガサ・クリスティの推理小説『A Pocket Full of Rye』の1節に、生き生きと描かれている。

ある事務所に雇われた新米の、無気力なだらしないソマーズというタイピストが、お茶の入れ方がなってないといって、古参の主任タイピストに叱られてくるふうだ。

The kettle was not quite boiling when Miss Somers poured the water on to the tea, Miss Griffith, the efficient head typist, said sharply: "Water not boiling again, Somers!" 〈やかんがまだ本当に煮立つてないのに、ソマーズ嬢は水をお茶の上に注いだ、 有能な主任タイピストのグリフィス嬢が「ソマーズ、また水が煮立つてないわよ。」と怒つて言った。〉

この1つの例からわかるように、実は英語には日本語の「湯」に当たる「とばがないの」ということができる。しかしこのようにhotをわざわざつけなければならぬといふのは、waterも「とば」が、温度に関しては、元来中立的な性質を持つことなどを示すものう。

もちろん英語でも、冷たい水との区別をはっきりつける必要があるときは、hot waterへ注うりができる。しかし「とば」の「とば」を、情況次第で「水」の「と」にも「湯」の「と」にも使う。

だ。

これに反し、日本語の「水」は、冷たいという性質をかなりはつきりと持つている。「熱い水」という表現が不自然に響くのも、「四角い三角」と同じくらい、矛盾したものだからである。

化学式では、H₂Oで示すことのできる物質は、日常的な日本語では温度および様態について、「氷」「水」「湯」の三つに区別して呼ばれている。それが英語では、ice' waterの二つであり、マレー語ではayér一つしかない。これを比較して図に示したのが表である。

H ₂ O	
マレー語	ayér
英語	ice water
日本語	氷 水 湯

マレー語でも、お湯をとくにはつきり言いたいときは、ayér^{アイル}panas^{パンヌス}と言わないことはないが、英語のhot waterと同じようなものである。また水をはっきりと水から区別したいときは、ayér^{アイル}béeku^{ベーク}つまり「かたまつた水」と言うことができるが、ayérだけでもかまわないのである。

ここにあげた、水ということばの三つの言語による内容の相違は、人間のことばというものが、対象の世界のある角度から勝手に切り取るというしきみを持っていることの例としてよく引かれる。

人が一つの言語の中で終始生活していくれば、ものとことばの関係は、いわば自明の前提として、懷疑の対象にはなりにくい。それをこのように他の言語と比較することで、身近な水や湯や氷のようなものでさえ、日本語という特定の言語に依存している、恣意的な区分にすぎないのだということが初めて理解されるのである。

ことばの分節性が世界を秩序づける

日本人にとって、水や湯や氷がそれぞれ独立した、いわば別個のものであるのは、「水」「湯」「氷」のよう、互いに区分が明確で、それぞれが独立した存在であることばの持つ構造を、現象の世界に私たちが投影しているからなのである。

水と湯の区別とは、ちょっとした温度の差に依存するわずかなものであり、相対的な対立でしかないことは誰の目にも明らかであろう。しかしこれに比べて、氷と水（および湯）の間には、究極的には温度の差に帰することができるにせよ、一応液体と固体の差という比較的明瞭な区別が存在する。だから両者の区別は、単なることばの問題というよりも、ものの側に、それを裏づけるだけの要因があるので言う人がいるかもしれない。

しかしそれならば、氷とつららの区別はどうであろうか。ある限られた条件（生じる場所と形状）の下で、日本語ではあたりまえの氷が、「つらら」と呼ばれるにすぎない。水とつららの区別を支えているのは、ここでもやはり、「氷」と「つらら」という、同一の対象を違った角度から見る見方につけられたことばなのである。だから、ものとしてのつららが立派に存在するトルコで、「氷」buzzと区別された「つらら」ということばがなくても不思議ではない。



このように考えてくると、氷と雹、霰、雪、霧、などとの区別もあやしくなる。気温が上がればこれらはすべて雨になってしまふ。そして雨と雹、靄の相違も水滴の粒子の大きさの問題にすぎず、しかも地面との相対的な距離の違いで、どれも雲になり得る。

素材の点では同一であるこれらの諸現象が、なぜそれぞれ違った名称を与えられているかといえば、そのほうが人が生活していくときに、便利だからである。都合がいいのである。

ものにことばを与えるということは、人間が自分を取りまく世界の一側面を、他の側面や断片から切り離して扱う価値があると認めたということにすぎない。

化学式で H_2O と一括することができる同一のものが、日本語で「氷」「水」「湯」「ゆげ」に始まり、「露」「霜」から「春雨」や「夕立」に到る、何十という別々のことばで呼ばれていることは、しかし、確実なものとしての存在は、 H_2O だけであって、それ以外の名称は、名前だけの実体のない存在、つまり対象の側に必然的な裏づけのない虚構であるということにはならないのである。

なぜかといえば、この H_2O ですら、人間が世界をある特定の角度から整理した結果、把握されたものであって、決して最終的な、確実なものではないからだ。 H_2O が水素原子と酸素原子の、ある状況下での結合物であることは明らかで、その水素や酸素の原子にしても、再びさらに細かい構成要素の組み合わせとして捉えられていくというプロセスの繰り返しを含んでいる。

「 H_2O 」という記号、つまり科学的なことばで把握される対象も、虚構であるという点では、「つらら」や「五月雨」となんら変わらない。人間の精神が、人間をとりまく森羅万象の世界にはたらきかけて作り出すことばは、すべてこの虚構性に支えられているのである。

人間は生のあるがままの素材の世界と、直接触ることはできない。素材の世界とは、渾沌こんどんとでも、カオスとでもいべき、それ自体は無意味の世界であって、これに秩序を与え、人間の手に負えるような、物体、性質、運動などに仕立てる役目を、ことばが果たしていると考えざるを得ない。

別紙 16-1

1問 / 5問

解答

- 嘩つま
 流行りゅうこう
 話題はと

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。
若者の間でブームになった。

1問 / 6問

別紙 16-2

次の表現の意味を答へよ。

幻滅げんめつ

（例文）

試験の結果が幻滅した。

解答を見る

別紙 17-1

1問 / 6問

解答

- 判断はんじやく
 批評ひひやく
 非難ひなん

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。
社会から批判される。

1問 / 6問

別紙 17-2

次の表現の意味を答へよ。

プロパガンダ

（例文）

プロパガンダに踊らされないように気をつけよう。

解答を見る

別紙 18

社名入る 教科書ウェブ
106-235 (書名入る)

【主張と根拠】解説動画

参考動画：「主張と根拠」解説

別紙 18

主張と根拠

主張 「私はこう思うのだ」

根拠 + 主張を支える
↓その主張を行う意図や背景が相手に伝わる

「主張を支える」とは？

- 根拠が相手に受け入れられるような内容か
- 根拠の内容が主張と関係があるか
- 根拠の内容が主張を論理的に補強し、主張の説得力を増しているか

0:00 / 1:49

106-235 (書名入る) / 根拠を示して主張する / 【主張と根拠】 / 【主張と根拠】解説動画

1問 / 6問

解答

巨大
 多大 膨張

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。
膨大な知識を持つ。

別紙 19-2

社名入る 教科書ウェブ
106-235 (書名入る)

【主張と反論】解説動画

参考動画：「主張と反論」解説

別紙 19-2

主張と反論

次の表現の意味を答えよう。
覚醒
〈例文〉 意識が覚醒する。

解答を見る

0:00 / 1:49

106-235 (書名入る) / 根拠を示して主張する / 【主張と反論】 / 【主張と反論】解説動画

別紙 19-1

1問 / 6問

解答

巨大
 多大 膨張

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。
膨大な知識を持つ。

別紙 20

社名入る 教科書ウェブ
106-235 (書名入る)

【主張と反論】解説動画

参考動画：「主張と反論」解説

別紙 20

主張と反論

先回りした応答
→ 説得力が増す
→ 想定される反論
→ 「それはどうではないか。」
「私の論にはAという反論が考
えられる。しかし、それに対
してはBと考
えられる。」

0:00 / 1:48

106-235 (書名入る) / 根拠を示して主張する / 【主張と反論】 / 【主張と反論】解説動画

別紙 21-1

1問 / 5問

解答

- ◎ 細かく述べる
- はつきり示す
- 解き明かす

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。
内面を解説する。

1問 / 5問

解答を見る

次の表現の意味を答えてみよう。

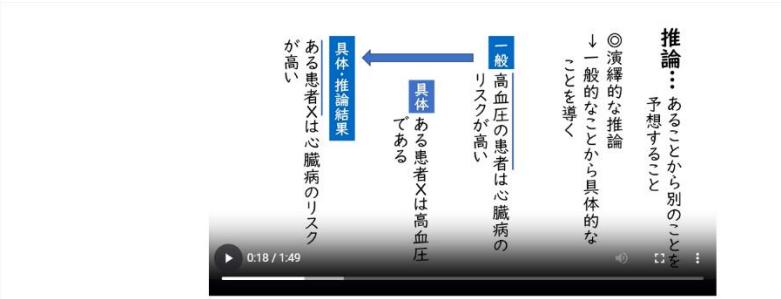
（例文）国語の学力をつけるためには、語彙を増やすことが不可欠だ。

別紙 22

番号入力 番号選択ウエブ
106-235 (書名入る)

【推論】解説動画

参考動画：「推論」解説



106-235 (書名入る) / 根據を示して主張する / 【推論】 / 【推論】解説動画

別紙 21-2

1問 / 5問

解答を見る

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。

その決断はすぐがしかしものだった。

- 穏やかな
- 空飛な
- ◎ 穏やかな
- 思い切った

1問 / 5問

解答

次の表現の意味を答えてみよう。

（例文）国語の学力をつけるためには、語彙を増やすことが不可欠だ。

別紙 23-1

別紙 23-2

1問 / 6問

解答を見る

次の表現の意味を答えてよ。つ。
投稿

〈例文〉

この／＼投稿した文章に注目が集まる。

1問 / 4問

解答

- たとえ
 ことわざ
 いましめ

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。
比喩を使つたおもしろい文章。

別紙 24-1

1問 / 6問

解答を見る

次の表現の意味を答えてよ。つ。
転用

〈例文〉

牛乳パックをgravantに転用する。

1問 / 5問

解答

- ある
 ない
 考えたい

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。
解決策もないではない。

別紙 25-1

別紙 25-2

1問 / 7問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
余暇
〈例文〉 余暇を利用して海外旅行に行く。

別紙 26-2

1問 / 6問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
大袈裟
〈例文〉 少し家を空けていただけなのに愛犬に大袈裟に歓迎された。

別紙 26-1

1問 / 4問

解答

- ばらまく
- もとに戻す
- 売りさばく

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。
利益を社会に還元する。



身近な「デジタル通貨」

クレジットカード

カード審査を通過することで入手できる。利用の際に、暗証番号の入力や署名による本人確認が必要な場合がある。利用した金額は、銀行口座からの引き落としなどの形で、後日まとめて支払う。（教科書本文脚注11も参照）

デビットカード

年齢などの申し込み条件を満たしていれば入手できる。基本的な使い方はクレジットカードと似ているが、利用した金額は銀行口座から即時引き落とされる。

プリペイド型電子マネー

年齢制限がないものが多く、申し込みや利用登録をすることで入手できる。事前にチャージ（入金）しておき、店舗等の端末にかざすことで代金の支払いができる。スマートフォンに電子マネーのアプリをインストールして利用できるものもある。

QR・バーコード決済

自分のスマートフォンに各種決済アプリをインストールすることで入手できるが、未成年の場合、利用には親権者等の同意を得る必要があるものもある。自分のQRコードやバーコードを提示する、もしくは、店舗が掲示するQRコードを読み取ることで支払うことができる。また、店舗とのやり取りだけではなく、個人間で送金できるものもある。支払い方法は、事前にチャージしておく方法や銀行からの引き落としなど、複数の中から選択できる。

○ 「紙幣や硬貨」と「デジタル通貨」を以下のようない観点で比較してみよう。

- ・ネットショッピングの際は？
- ・海外で利用する際は？
- ・災害が起きた際は？

別紙 28-1

1問 / 5問

解答

-
-
-
- 基本
- 根源
- 因果

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを見つめよう。

起源をつまどめる。

別紙 28-2

1問 / 6問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
資本
〈例文〉
事業を始めるために、資金を準備する。

別紙 29-1

1問 / 7問

解答

-
-
-
- 平和
- 公平
- 公共

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを見つめよう。
競争
フェアな競争。

別紙 29-2

1問 / 6問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
資本
〈例文〉
事業を始めるために、資金を準備する。



思想家・用語解説

◆近代市民社会

市民革命を経て封建制から解放された、自由で平等な自立的個人による社会。清教徒革命、名誉革命後のイギリス社会、アメリカ独立革命後のアメリカ社会、フランス革命後のフランス社会などが代表的。

◆ホップズ

ホップズは『リバイアサン』（一六五一年）を著し、近代の政治思想や人権思想の根本となる考え方を確立した。

ホップズは、人間が生きていくために必要な食料や資源は有限であるため、法や正義が存在しなければ、個人が互いの権利を主張し合うことで争いが生じると考え、これを「万人の万人に対する闘争」と呼んだ。

そのような「闘争」を回避するためには、国家（君主）が社会の調停者の役割を果たす必要があり、各個人は自身の生命や財産にかかる権利を国家に譲渡・放棄すべきだとした。

◆ロック

ロックは『市民政府二論』（一六九〇年）を著し、人々が生まれながらに持つ権利が侵害されたときには、国民は政府に抵抗する権利を持つと述べた。彼の主張は、イギリスの名誉革命を正当化し、またアメリカ独立革命にも影響を与え、民主主義の基本的な思想となつた。

ロックはホップズとは異なり、食料や資源は増やすことができるため、そもそも万人は自由・平等・独立・平和の状態にあると考えた。

そのうえで、それらの自由や平等をより完全なものにするために、各個人は自身の持つ生命・自由・財産の権利を代表者に信託し、その代表者からなる議会がそれらの権利を保障する、間接民主制によって国家を運営るべきだと主張した。

◆ルソー

ルソーは『社会契約論』（一七六二年）を著し、国家を統治する主権は国民にあるとする國民主権の理論を樹立した。すべての人間が共同して作り上げ、すべての人間によって運営される平等社会の実現を目指したルソーの考えは、フランス革命に影響を与えた。

ルソーは、万人は元来、闘争せず、自由・平等であり、精神的にも経済的にも独立した存在であるが、私有財産制による文明の発達がその状態を破壊するとした。

ただし、現実的には文明以前のいさかいのない状態に戻ることは難しいので、個人は自由・平等に関する権利を共同体に譲渡し、その共同体を個人が直接参加する直接民主制によつて運営するべきだと主張した。

◆リバタリアニズム

財産権をはじめとする個人の自由は最大限確保されるべきであるとし、国家による統制や介入を認めない立場。弱者や貧困者の救済を目指す社会保障も否定する。

別紙 31-1

1問 / 5問

解答

- -
 -
 -
- 再生可能

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。
化石燃料はサステイナビリティな資源ではない。

別紙 31-2

1問 / 7問

次の一表現の意味を答えよ。/
俯瞰する
（例文）現状を俯瞰して思ふことで解決策が見つかった。

解答を見る

別紙 32-1

1問 / 5問

解答

- -
 -
 -
- 裏付け

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。
彼の成功は努力の所産だ。

別紙 32-2

1問 / 7問

次の一表現の意味を答えよ。/
諸相
（例文）渋谷に集まる若者の諸相を鋭く切り取ったルポルタージュ。

解答を見る

別紙 33-1

1問 / 5問

解答

- ぶり返し
- 前ぶれ
- はやり

傍線部の語句の言い換えとして『最適なもの』を選ぼう。

病の兆候に気づく。

1問 / 7問

別紙 33-2

次の表現の意味を答えよう。

施行

〈例文〉 新しい法律が施行される。

解答を見る

柳澤桂子・主な経歴

別紙 34-1

■一九三八年（昭一二）

東京に生まれる。

■一九五六六年（昭三一）

東京都立戸山高等学校卒業。

■一九六〇年（昭三五）

お茶の水女子大学理学部植物学科卒業。ニューヨーク・コロンビア大学動物学部大学院に進学。

生物学者であつた嘉一郎氏と結婚。

■一九六三年（昭三八）

コロンビア大学大学院博士課程修了。大腸菌の研究で博士号を取得し、帰国。

帰国後、一男一女が生まれる。

慶應義塾大学医学部分子生物学教室助手。

自身の出産という経験から、発生学へと興味が移り、ハツカネズミの発生の研究に取り組む。

■一九六九年（昭四四）

三十一歳のときに激しい痛みと全身のしびれを伴う原因不明の難病を発病し、最初の入院をする。

三十八度近い微熱とめまい、嘔吐^{おうと}に見舞われ大学病院に入院し、自律神経失調症と診断され投薬を受けるも改善せず、以後この症状が、毎月一回、二週間ほど続くようになる。

■一九七一年（昭四六）

三菱化成生命科学研究所副主任研究員となり輝かしい業績をあげるも、激しいめまいと嘔吐で倒れる。大学病院産婦人科で「子宮内膜症」という診断を受け、子宮の摘出手術を受けるが、症状は継続。他科の教授から「慢性膀胱炎」^{まんせきぱうえん}という診断を受け、治療を受けるようになる。

■一九七五年（昭五〇）

東北大学理学博士。

三菱化成生命科学研究所主任研究員。

■一九七七年（昭五一）



このころより入退院を繰り返す。症状が継続し、寝たきりとなるが、心気的のものとて抜われ、休職が続く。

■一九八三年（昭五八）

四十五歳のとき、病氣のため三菱化成生命科学研究所を退職せざるをえなくなる。

■一九八六年（昭六一）

闘病生活のかたわら、サイエンス・ライターとして執筆を開始。

「音」に入会して短歌を始める。

■一九九三年（平五）

『卵が私になるまで』で翌年第十四回講談社出版文化賞科学出版賞受賞。

■一九九四年（平六）

『お母さんが話してくれた生命の歴史』（全四巻）で第四十一回産経児童出版文化賞受賞。

■一九九五年（平七）

『二重らせんの私』で翌年第四十四回日本エッセイスト・クラブ賞受賞。

■一九九九年（平一一）

NHK「ドキュメントっぽん」の「いのち再び」で闘病する姿が放送される。

千葉市の精神科医が家族の依頼により往診、「慢性疼痛」と診断され、SSRIの投与で症状は軽減されたものの完治まではいたらず、闘病生活が続く。

日本女性科学者の会功劳賞受賞。

■二〇〇一年（平一三）

NHK「ETV2001～いのちの対話」（ピアニスト梯剛之氏との対話）が放送される。

■二〇〇二年（平一四）

お茶の水女子大学名誉博士。

■二〇〇五年（平一七）

NHKハイビジョン特集「いのちで読む般若心經～生命科学者・柳澤桂子」が放送される。

■二〇〇七年（平一九）

『文藝春秋』二〇〇六年十二月号に掲載された玄宿宗久氏との対談『般若心經－いのちの対話』が第六十八回文藝春秋読者賞受賞。





柳澤 桂子

風に吹かれる合歓を見ていて考える風とはきっと渦の連なり
マンモスの牙のごとくに伸びていく科学技術が人を滅ぼす
咲きさかるチューリップの前ボーズ取る父の居た日は温かかりき
父の膝にすっぽり座り朝刊の匂いをかぎし幼日ありき

生きるとは少しずつ死ぬことと知る萩の揺れ葉に舞う紋黄蝶

日に何度心臓発作の苦しみに耐えてニトロの苦き甘さよ

血圧に心拍動に次つぎに壊れてゆけり魂宿す身は

飲み込めぬ飯幾粒か迷わせて今日の病を静かに受ける

働きを失いし臓導尿の指導を受ける暖かき日に

またひとつ授かりし臓失いて帰りし家に残菊乱る

巣立ちゆきし子らの夢見る幾夜あり年老いてなお私の一部

一かけの飯も通さぬ臓もちて今日を生かされ降る雪を見る

獸性をむきだしにして殺し合う使う兵器は知性の結晶

まぎれなく私に父と母がいた満月のようなまあるい記憶

芽吹くものみな尖りおり死ぬときは丸き実になり次代へつなぐ

もうひとつのはいせつ排泄機能も失われる静かに受ける医師の宣告

浮かび来る悲しみいくつ遣らいつつ葵の紅き花を見つめる

道端の夾竹桃は黄に開くわたしが壊していくというのに

生きるかぎりわずらしさがつきまと根治の手だてなき病なり

けものなら死ぬであろうに人ゆえに医学によりて生きて苦しむ

生きることかく辛ければ死にすがり安らぎを乞う永久の安らぎ

日を追いて薄まりていくわがいのち水に戻る日月白からん

どのくらい土を踏まなかつたことだろう幾年も風にも祈らなかつた

みそ汁のなかの浅蜊は口を開く死は容赦なく慎みを剥ぐ

ふたたびの生を授けん新葉は珊瑚の色のカプセルに入る

ふたとせの横臥のうちに立たんとす足裏は膨れ床を感じず

別紙 35-1

1問 / 5問

解答

-
-
-
-

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。
デモクラシーの気運が高まる。

別紙 35-2

1問 / 7問

次の表現の意味を述べよ。

慣習

〈例文〉

地域の祭事は古い慣習に従って行われている。

解答を見る

別紙 36-1

1問 / 5問

解答

-
-
-
-

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。
恣意性の高い文章。

別紙 36-2

1問 / 7問

次の表現の意味を述べよ。

新興

〈例文〉

AIの発展により新興のIT企業が設立された。

解答を見る

常用漢字表

この表は「常用漢字表」を成る十二年間内によると、常用の漢字は三十六字で、音字によると五十音順に配列され、「拂がな」の付け方による迭りがなを示す。傍説を付した音訓は用法の狭いものである。色字の漢字は小学校の配列漢字を示す。

常用漢字表

常用漢字表

常用漢字表

使用漢字

常用漢字表

港	慌	喉	黃	梗	控	康	高	降	貢	航	耕	校	候	香
みなと	アハラ	アハラ	コウ	コウ	コウ	カマキ	カマキ	カマキ	カマキ	カウ	カウ	カウ	カウ	ラバ
号	乞	購	講	鋼	衡	興	稿	酵	網	構	鉱	溝	項	絞
ゴウ	ク	コウ	コウ	コウ	コウ	コウ	コウ	コウ	コウ	コウ	コウ	コウ	コウ	コウ
駒	骨	獄	酷	穀	黒	国	刻	谷	告	克	豪	傲	剛	拷
コウ	ゴク	コク	コク	コク	コク	コク	コク	コク	コク	ゴク	ゴク	ゴク	ゴク	ゴク
佐	左	懸	墜	魂	紺	痕	混	婚	根	恨	昆	困	今	頃
サ	ヒナリ	ね	の	コン	だ	た	お	の	う	の	コン	い	コ	こ
彩	裁	宰	碎	采	妻	災	再	才	挫	座	鎮	詐	嗟	唆
イ	イ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	コン	サイ	サイ	サイ
在	墇	際	載	歲	塞	催	債	裁	最	菜	細	齋	祭	濟
ア	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ
刷	札	冊	唉	錯	搾	醉	策	索	柵	昨	削	作	崎	罪
ス	サフ	サフ	サフ	サフ	サク	サク	サク	サク	サク	サク	サク	サク	サク	サク
傘	產	慘	蚕	棧	參	山	三	皿	雜	擦	撮	察	殺	拶
カサン	ウラシ	ウラシ	ミン	ジン	サン	サン	サン	ミン	サン	ザク	ザク	ザク	ザク	ザク
司	史	仕	氏	止	支	子	士	暫	斬	殘	贊	酸	算	散
シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ
肢	祉	姊	始	刺	使	私	志	伺	至	系	死	旨	矢	市
シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ

常用漢字表

飼	資	詩	試	嗣	齒	詞	紫	視	脂	紙	恣	態	施	指
カシ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ
治	侍	事	兒	似	自	耳	次	寺	字	示	諮	擊	雌	誌
ナガシ	ジ	ジ	ジ	ジ	ジ	ジ	ジ	ジ	ジ	ジ	ジ	ジ	ジ	ジ
疾	室	失	叱	七	軸	識	式	鹿	璽	餌	磁	辭	慈	滋
シツ	ル	シツ	モツ											
煮	斜	赦	捨	射	者	舍	車	社	写	芝	實	質	漆	濕
ニヤ	シツ													
守	主	手	寂	弱	若	爵	釂	酌	借	尺	蛇	邪	謝	遮
モリ	シテ													
儒	需	授	呪	受	壽	趣	種	腫	臥	酒	珠	首	狩	朱
ジユ	ジユ	ジユ	ジユ	ジユ	ジユ	ジユ	ジユ	ジユ	ジユ	ジユ	ジユ	ジユ	ジユ	ジユ
習	羞	終	袖	修	臭	秋	拾	宗	周	秀	舟	州	囚	收
ナシウ	シユ	ジユ												
重	柔	住	充	汁	十	襲	蹴	醜	醜	愁	集	衆	就	週
カカシ	オジ	シユ												
出	熟	塾	縮	肅	淑	宿	祝	叔	縱	獸	銃	渢	從	従
シナ	ジラ													
處	遵	潤	準	順	循	純	殉	准	盾	巡	旬	瞬	春	俊
ショ	ジン	ウ	ジン											

常用漢字表

小	除	徐	叙	序	助	如	女	諸	緒	署	暑	所	書	初
こ	じょ	じょく	じゅ	じゅく	じょ									
こく	じょく	じょく	じょく	じょく	じょく	じょく	じょく	じょく	じょく	じょく	じょく	じょく	じょく	じょく
消	將	宵	昭	沼	松	昇	承	招	尚	肖	抄	床	匠	召
けい	じょう	しやう	しょう	ぼう	まつ	せう	じゆう	じょう	じょう	しよ	しゃう	まつ	じょう	じょう
けい	じょく	しやく	しやく	まつ	まつ	せう	じゅう	じょう	じょう	しよ	しよ	まつ	じょう	じょう
硝	焦	燒	晶	掌	勝	訟	紹	章	涉	商	唱	笑	称	祥
ショウ	カヤウ	ヤウ	ショウ											
ショウ	カヤウ	ヤウ	ショウ											
鐘	礁	償	賞	衡	憧	障	彰	詳	照	獎	傷	象	証	詔
ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ
ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ	ショウ
蒸	疊	場	情	常	刺	淨	城	乘	狀	冗	丈	上		
じょう	じょう	じょう	じょう	じょう	じょう	じょう	じょう	じょう	じょう	じょう	じょう	じょう	じょう	じょう
じょう	じょう	じょう	じょう	じょう	じょう	じょう	じょう	じょう	じょう	じょう	じょう	じょう	じょう	じょう
辱	職	織	觸	飾	殖	植	食	拭	色	釀	餾	娘	壤	
じゆく	おる	おる	しょく	じょく										
じゆく	おる	おる	しょく	じょく										
真	漫	振	娠	昏	神	津	信	侵	辛	身	芯	臣	伸	申
まん	ひたすら	ひたすら	ふる	ふる	じん									
まん	ひたすら	ひたすら	ふる	ふる	じん									
刃	人	親	薪	震	審	新	慎	寢	診	森	進	紳	深	針
じん	ひん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん
じん	ひん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん
衰	粹	帥	炊	垂	吹	水	圖	須		腎	尋	陣	甚	迅
あせ	すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい		じん	じん	じん	じん	じん
あせ	すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい		じん	じん	じん	じん	じん
是	瀕	セ	寸	裾	杉	据	数	崇	枢	髓	隨	穗	睡	遂
ぜ	せ	せ	セン											
ぜ	せ	せ	セン											

常用漢字表

井	世	正	生	西	成	聲	制	性	青	齊	政			
せい														
せい														
せい														
誓	精	誠	聖	勢	晴	婿	盛	清	逝	省	牲	星		
せい														
せい														
惜	隻	脊	席	昔	赤	石	斥	夕	稅	醒	整	請	靜	
せき														
せき														
舌	說	節	攝	雪	設	接	竊	拙	折	切	籍	績	積	跡
せつ														
せつ														
旋	栓	扇	染	洗	淺	泉	專	宣	先	占	仙	川	千	絕
せん														
せん														
鮮	織	薦	選	遷	線	潛	錢	箋	踐	詮	腺	胰	煎	戰
せん														
せん														
組	粗	措	素	租	祖	阻	狙	縉	漸	禪	善	前	全	
くそく														
くそく														
搜	倉	送	草	莊	相	奏	走	爭	早	壯	双	週	塑	疎
さがす	くら													
さがす	くら													
縑	層	想	僧	裝	葬	瘦	喪	剖	窓	爽	曽	曹	掃	插
くわ														
くわ														
即	臘	贈	歲	憎	增	像	造	藻	霜	燥	操	踪	槽	遭
そく	そく	おくる	おくる	そく										
そく	そく	おくる	おくる	そく										

常用漢字表

率	卒	統	賊	屬	族	俗	測	側	速	捉	息	則	促	足	東
ひさしきり	そつ	とう	ぞく	ぞく	ぞく	ぞく	そく	そく	そく	とく	そく	そく	そく	そく	とう
駄	情	墮	唾	妥	打	汰	多	他	た	遙	損	尊	孫	村	存
だ	だ	だ	だ	だ	だ	だ	だ	だ	た	とん	そん	そん	そん	そん	とん
滞	隊	貸	替	逮	袋	堆	泰	帶	退	胎	息	待	耐	体	対
とど	たい	かす	かす	たい											
諾	灌	託	拓	卓	沢	択	宅	滝	題	第	台	代	大	戴	態
だ	だ	だ	だ	だ	だ	だ	だ	だ	だ	だ	だ	だ	だ	だ	だ
嘆	短	淡	探	胆	炭	单	担	旦	丹	誰	棚	奪	脱	達	但
なげむ	たん	たん	たん	たん	たん	たん	たん	たん	たん	だれ	たな	たな	たな	たな	たん
知	池	地	ち	壇	談	暖	彈	断	段	男	団	鍛	誕	綻	端
しる	いけ	ち	ち	だん											
茶	室	秩	築	蓄	逐	畜	竹	緻	置	稚	痴	遲	致	恥	值
チャ	シツ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ
駐	鑄	酌	衷	柱	疊	注	抽	忠	宙	沖	虫	仲	中	嫡	着
ちゅ	じゅ	しゅ	しゅ	しゅ	しゅ	しゅ	しゅ	しゅ	しゅ	しゅ	しゅ	しゅ	しゅ	しゅ	じゅ
貼	朝	鳥	頂	釣	眺	彫	張	帳	挑	長	町	兆	序	弔	丁
はる	あさ	とり	とう	つる	ほる	のこ	ぢ	ぢ	はる	ちよ	ちよ	ちよ	ちよ	ちよ	とう
珍	沈	抄	勑	直	懲	聽	調	澄	潮	嘲	微	跳	勝	超	
めずらしい	しん	しょ	ちょく	ぢ	ぢ	ぢ	ぢ	ぢ	ぢ	ぢ	ぢ	ぢ	ぢ	ぢ	

常用漢字表

て	鶴	爪	坪	漬	塚	痛	通	墜	椎	追	鎮	貨	陳	朕
つる	つる	つば	つば	つけ	つけ	つづ	つづ	つい	つい	つい	ちん	ちん	ちん	ちん
偵	停	通	庭	訂	帝	貞	亭	郎	抵	底	定	弟	廷	呈
てい	てい	つう	てい	てい	てい	てい	てい	らい	つあ	つあ	てい	てい	てい	てい
鐵	哲	透	溺	敵	通	滴	摘	笛	泥	蹄	締	艇	提	堤
てつ	てつ	とう	ねき	てき	つう	てき	てき	笛	ね	てき	てき	てい	てい	てい
電	殿	伝	田	填	転	添	展	点	店	典	天	撤	徹	
でん	でん	でん	でん	でん	でん	でん	でん	でん	でん	でん	でん	でん	でん	
冬	刀	怒	度	努	奴	土	賭	塗	都	途	徒	妃	吐	斗
ふゆ	とう	かたな	だ	だ	だ	ど	ど	と	と	と	と	ひく	ト	ト
党	透	討	桃	島	唐	凍	倒	逃	到	東	豆	投	當	灯
とう	とう	とう	とう	とう	とう	とう	とう	とう	とう	とう	とう	とう	とう	ひとう
糖	踏	稻	統	簡	等	答	登	痘	湯	棟	搭	塔	陶	盜
とう	ふまえる	とう	とう	とう	とう	とう	とう	とう	とう	とう	とう	とう	とう	とう
瞳	導	銅	働	道	童	堂	動	洞	同	騰	闊	藤	騰	頭
ひとみ	ひづみ	どう	どう	どう	とう	どう	どう	どう	とう	とう	とう	とう	とう	とう
頓	豚	屯	届	突	凸	枋	読	獨	毒	罵	篤	督	得	特
とん	とん	とん	とん	とん	とん	とん	とん	とん	とん	とん	とん	とん	とん	とん
二	に	難	軟	南	鍋	謎	梨	内	泰	那	井	晏	鈍	食
ふたつ	ふたつ	なん	なん	なん	な	な	な	な	な	な	ドン	ドン	ドン	ドン

常用漢字表

年	熱	寧	ね	認	忍	妊	任	尿	乳	入	日	虹	肉	勻	式	尼	
とし	あつい	ねい	みこめる	にん	しのばせ	じのう	にん	まかせる	ニコラ	ニコ	に	ヒカル	ヒカル	ニ	おひ	おひ	
派	波	把	は	濃	農	腦	能	納	惱	の	燃	粘	揃	念	ネ	ニ	
は	なみ	は	は	こい	のう	のう	のう	のう	のう	のう	のう	のう	のう	のう	のう	のう	
壳	葦	廢	敗	排	配	俳	肺	背	杯	拝	罵	婆	馬	霸	破	ハ	
くわい	ハイ	ハイ	ハイ	ハイ	ハイ	ハイ	ハイ	ハイ	ハイ	ハイ	ハイ	ハイ	ハイ	ハイ	ハイ	ハイ	
博	船	剥	迫	泊	拍	伯	白	賠	買	媒	陪	培	梅	倍	ハ	ハ	
ハク	ハク	ハク	ハク	ハク	ハク	ハク	ハク	ハク	ハク	ハク	ハク	ハク	ハク	ハク	ハク	ハク	
抜	伐	髮	發	鉢	八	肌	畑	箸	箱	爆	縛	漠	妻	薄	ハ	ハ	
ぬき	ハク	ハク	ハク	ハク	ハク	ハク	ハク	ハク	ハク	ハク	ハク	ハク	ハク	ハク	ハク	ハク	
畔	班	版	板	阪	坂	判	伴	汎	帆	犯	氾	半	反	閥	罰	ハ	
パン	ハン	ハン	ハン	バン	バン	バン	バン	ハン	ハン	ハン	ハン	ハン	ハン	ハン	ハ	ハ	
皮	比	盤	蠻	番	晚	藩	繁	範	頒	煩	搬	飯	班	販	般	ハ	
かわ	ひ	バン	バン	バン	バン	バン	バン	バン	バン	バン	バン	バン	バン	バン	バン	ハ	
碑	費	屏	悲	被	秘	疲	飛	卑	非	肥	披	彼	否	妃	ヒ	ヒ	
ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	
水	氷	百	姬	筆	泌	必	匹	肘	膝	鼻	微	備	美	眉	尾	避	罷
ヒヨウ	ヒヨウ	ヒヨウ	ヒメ	ヒツ	ヒツ	ヒツ	ヒツ	ヒツ	ヒツ	ヒツ	ヒツ	ヒツ	ヒツ	ヒツ	ヒツ	ヒツ	
頻	寶	貧	浜	品	猫	描	病	秒	苗	標	漂	評	票	依	表	ヒヨウ	ヒヨウ
ヒン	ヒン	ヒン	ヒン	ヒン	ヒン	ヒン	ヒン	ヒン	ヒン	ヒン	ヒン	ヒン	ヒン	ヒン	ヒン	ヒン	

常用漢字表

赴	負	計	訃	附	卓	怖	府	扶	布	付	父	夫	不	瓶	敏
おもむく	おもい	おもむくする	おもい	おもむく	おもむく	おもい	おもむく	おもむく	おもむく	おもむく	おもい	おもい	おもい	おもい	おもい
風	封	舞	部	武	侮	譜	賦	膚	腐	普	富	符	婦	浮	フ
ふう	ふう	ふう	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ
霧	紛	粉	物	仏	沸	払	覆	複	腹	福	復	幅	副	服	伏
フ	フ	フ	モ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ
陸	柄	並	併	兵	平	丙	聞	文	分	書	憤	噴	噴	噴	噴
ル	ハイ	ハイ	ハイ	ハイ	ハイ	ハイ	ブン	ブン	ブン	ブン	ブン	ブン	ブン	ブン	ブン
変	返	辺	片	蔑	別	癖	壁	米	餅	蔽	弊	幣	埠	閑	ハ
かわる	かえす	かえす	かえす	かえす	かえす	かえす	かえす	かえす	かえす	かえす	かえす	かえす	かえす	かえす	かえす
墓	募	母	舗	補	捕	哺	保	歩	勉	便	弁	編	遍	偏	ハ
はか	は	は	は	は	は	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ
做	俸	胞	泡	法	放	抱	宝	奉	邦	芳	包	方	薄	暮	ハ
ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ
防	忘	妨	坊	忙	乏	亡	豐	蜂	報	訪	崩	峰	峰	峰	ハ
ふせぐ	ふせぐ	わざわざ	ぼう	わざわざ	わざわざ	わざわざ	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう
北	煩	謀	膨	暴	貌	貿	棒	帽	傍	望	紡	冒	某	肪	房
きた	ホク	ホク	ホク	ホク	ホク	ホク	ホク	ホク	ホク	ホク	ホク	ホク	ホク	ホク	ホク
麻	凡	翻	奔	本	堀	勃	撲	墨	僕	睦	朴	木	木	木	木
ま	あま	ボン	ボン	ボン	ボン	ボン	ボン	ボン	ボン	ボン	ボン	ボン	ボン	ボン	ボン

常用漢字表

滿	万	抹	末	又	枕	膜	幕	埋	昧	枚	妹	每	魔	磨	摩
みちる	マン	マン	マツ	マツ	マツ	マツ	マツ	マツ	マツ	マツ	マイ	マイ	マイ	マ	ミマ
務	矛	朮	眠	民	妙	脈	蜜	密	岬	魅	味	未	漫	慢	
つむ	ぼく	ぼく	ねひむ	みん	ミン	ミツ	ミツ	ミツ	ミツ	ミツ	ミ	ミ	マン	マン	
滅	鳴	銘	盟	冥	迷	明	命	名	め	娘	霧	夢	無	ない	アヅ
ほろびる	メフ	メイ	メイ	メイ	メイ	メイ	メイ	メイ	メイ	メイ	ムキ	ムキ	ム	ム	アヅ
門	默	目	網	猛	耗	盲	妄	毛	模	茂	も	麺	綿	面	免
かど	だま	だま	モク	モク	モク	モク	モク	モク	モク	モク	モク	メン	メン	メン	メン
由	由	間	躍	葉	訖	約	役	厄	弥	野	夜	治	や	問	紋
よし	ゆ	やみ	やく	カズリ	カズリ	ヤク	ヤク	ヤク	ヤ	のや	よや	ヤ	ヤ	モン	モン
遊	裕	猪	湧	郵	悠	幽	勇	有	友	唯	癒	輸	論	愉	油
あそぶ	ユウ	エウ	ユウ	ユウ	ユウ	ユウ	ユウ	ユウ	ユウ	ユウ	ユ	ユ	ユ	ユ	ユ
洋	妖	羊	用	幼	預	譽	余	予	与	よ	優	融	憂	誘	雄
ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ
養	窯	踊	瘍	樣	腰	溶	陽	葉	搖	揚	庸	容	要		
やう	ヤウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	
雷	來	羅	裸	拉	ら	翼	翌	欲	浴	沃	抑	曜	謠	擁	
ライ	ライ	ラ	ラ	ラ	ラ	ヨク									
病	理	里	利	吏	リ	欄	藍	濫	覽	卵	亂	辣	酩	落	絡
かみなり	リ	リ	リ	リ	リ	ラン									

常用漢字表

リュウ	リュウ	リス	リク	リフ	リフ	リフ	リフ	リフ	ラ						
リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	ラ

リョウ															
リス															

レイ	レ	ライ	ルイ	ルイ	ルイ	ルイ	ルイ	リン	リョウ						
リス															

オレフ	レフ	レイ													
リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス

モロウ	ロウ	ロウ	フロウ	ロウ	ロウ	ロウ	ロウ	ロウ	レン	レン	レン	レン	レン	レン	レフ
リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス

はなし	ワ	ロン	ロク	ロク	ロク	ロク	ロク	ロク	ロウ	ロウ	ロウ	ロウ	ロウ	ロウ	ウ
リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス	リス

うわん	ワン	ワケ	カイ	カイ	カイ
リス	リス	リス	リス	リス	リス

當月道二卷

・以下にあげられている語を構成要素の一部とする熟語に用いてもかまわない。例「河岸(かし)」→「魚河岸(うおがし)」「居士(じし)」→「一言居士(いちごんじ)

もみじ 紅葉

あ　か　さ　た　な　は　ま　や　ら　わ

あ

アーキテクチャ 建築学における「建築様式」をさす言葉。そこから派生して「コンピュータシステムの共通仕様や、人間の行為を制約したり一定の方向へ誘導するような構造（たとえばファストフード店の硬い椅子が長居をさせず結果的に回転率を上げるなど）をさすようになつた。

アイデンティティ（自己同一性） 自分

は自分であるという実感を持つこと。自分という存在の独自性についての認識。一般に**アイデンティティは他者**との関係性において確立するが、これがうまく保てない状態を「**アイデンティティクラッシュ（自己喪失）**」といふ。

関連 **自分探し** 自分の現状に満足できず、どこかに「本当の自分」という存在があると考へて探し求めること。

キャラ 「キャラクター」の

略。ただし、「キャラクター」は持続的な性格とそれを支える環境を想起させるが、「キャラ」はその存在 자체が独立している印象を与え、ある集団における振る舞い方の類型的な役割（「〇〇キャラ」など）をさす用語である。近年、素の自分ではなく、特定のキャラを演じるという行動様式が見られる。キャラを演じることで集団内のコミュニケーションが円滑化される反面、人間関係が表層的になると指摘もある。

アイロニー 自分が言おうとしていることを、反対の表現を使って効果的に表示すること。遅刻してきた人に「お早いですね」などということ。反語。逆説。皮肉。イロニー。

アウフヘーベン（止揚） 矛盾や対立をより高い次元で一つの結論に統一する

こと。弁証法により望ましい結論に至ること。

↓弁証法

アウラ 芸術作品がいま・ここに結びついてその一回性に基づいて現象する特有の雰囲気。ドイツの哲学者ヴァルターベンヤミンが定義した語。ベンヤミンは、写真などの複製技術時代の芸術作品においてはアウラが凋落すると指摘している。

↓一回性

アナロジー 類推すること。物事の間の類似する部分に着目して結びつけること。

関連 **一神教** 唯一の神のみを信仰する宗教。キリスト教やイスラム教など。

アーミズム ある現象の中に靈魂を認め崇拝すること。

関連 **多神教** 複数の神々を同時に信仰する宗教。神道やヒンドゥー教など。

ア・プリオリ 経験に先立つこと。前提としてあるもの。先天的に。

対 **ア・ポスティオリ** 経験に基づくこと。後天的に。あとから。

↓神

ア・ポステリオリ 経験に基づくこと。後天的に。あとから。

アレゴリー 抽象的な概念を具体的な事物で暗示的に示すこと。寓意。

あ か さ た な は ま や ら わ

アンチテーゼ ある命題に対しての否定的主張。反対論。

↓ **弁証法**

アンビバレン特 相反する感情や意見を同時に持つ様子。また、一つのものに相反する価値が併存する様子。

↓ **両義的**

一回性 ある事項が一回しか起こらず再現できないこと。

位相 ①数学において、集合に含まれる要素どうしのつながりを示す概念。→ ポロジー。②周期的に繰り返す現象の中の、ある特定の局面。③社会的な属性や、コミュニケーション方法などの違いから、言葉に違いが生じる現象。④転じて、社会におけるレベル。立場。そこから見えるあります。

関連 次元

元は、一般的な空間の広がりを表す語。直線を一次元、平面を二次元、空間を三次元と呼ぶことから、レベルや立場を表すようになつた。転じて、マンガやアニメーション、ゲームなどを「次元」、それらを原作としたミュージカルや演劇などの舞台芸術を「一・五次元」と呼ぶことがある。

異端 正統から外れていること。

一義的 意味が一つであること。多くの事柄を一つの意義や観点からまとめて捉えること。根本として捉えること。

関連 両義的 相反する二つの意味を同時に持ち、どちらにも取ることが可能なこと。

関連 多義的 複数の意味を持つていること。複数の意味に解釈できる」と。

一元化 分裂している問題や組織を一つに統一すること。
↓ **一元論**

一元論 もさまざま現象が一つの根本原理に基づいて成立していると考えること。

関連 **一元論** 物事を相対立する二つの原理によって説明しようとする考え方。「デカルトの物心一元論」が代表的。

関連 多元論 物事が一つの原理ではなく、多様な原理によって独立して成立していると考えること。

関連 アウラ 芸術作品がいま・ここに結びついてその一回性に基づいて現象する特有的雰囲気。ドイツの哲学者ヴァルター・ベンヤミンが定義した語。ベンヤミンは、写真などの複製技術時代の芸術作品においてはアウラが凋落すると指摘している。

↓ **再現性**

一神教 唯一の神のみを信仰する宗教。キリスト教やイスラム教など。

↓ **神**

一般化 さまざまな事柄から一つの原理を導き出して捉え直すこと。

イデオロギー 人間の意識や行動を支配する観念。思想傾向、とくに政治・社会思想をさすことが多い。

イノベーション 新しい技術の発明（技術革新のこと）。広義には、社会的な新たな価値を創造して大きな変化をもたらす変革をさす。

因果関係 原因と結果の関係。法律上では、犯罪や不法行為などをした者が負担すべき責任の根柢の一つとして、行為と結果との間にあると認められるつながりをさす。

インセンティブ 個人などの意思決定主体が、行動を起こす原因となるもののこと。誘因。

インフラストラクチャー 産業や生活の基盤となる施設のこと。道路、水道、

あ か さ た な は ま や ら わ

電気、通信網、公共交通機関、学校、病院、公園など。インフラ。

インフルエンサー 他の人々に大きな影響力を及ぼす人物。SNSなどインターネット上で影響力を持つ人物をさすことが多い。

「パロール（話し言葉）」と対比される。

「人生は旅だ」など。

「ものだ」「ア」と「」などの語を使わず、比喩である」と明示しない形式の比喩。

「人生は旅だ」など。

「ものだ」「ア」と「」などの語を使わず、比喩である」と明示しない形式の比喩。暗喩。

「人生は旅だ」など。

き言葉がそれを記した者の統御下になることを強調する場合に用いられる。

「パロール（話し言葉）」と対比される。

自分本位に考えて行動する姿勢。利己主義。

↓個人主義

人間と自然の調和や共生などをさす。もともとは「生態学」を意味する語。

生物とそれを取り巻く

環境を全体的に捉えたもの。生態系についての学問を「生態学（エコロジー）」という。「デカルトは物心一元論

によつて、自然と人間を切り離して考える近代的思考をもたらしたが、生態学はこうした自然と人間の関係を見つめ直すものもある。

↓生態系

人類学用語で、共通の言語、宗教、生活習慣、歴史を基盤とした文化的な民族集団のこと。また、ある民族が持つ性質や気風、心性のこと。

↓民族

家族・学校・会社・地域など同族意識のあるものをウチとし、それ以外をソートとする日本特有の精神的な区分。

証拠。根拠。科学的な裏付けとなるデータ。

エビデンス

普遍的な原理から個別的な原理を導くこと。「人は必ず死ぬ（大前提）」→「ソクラテスは人である（小前提）」→「だからソクラテスは必ず死ぬ（結論）」と結論を導き出す方法を二段論法といつ。

原理を導き出すこと。

個別的な事象から普遍的な

原理を導き出すこと。

自分の考え方の根拠として他の文献や事実を引用すること。

援用

社会や自由は発展拡大していく」といった社会全体で共有されている価値体系。元はフランスの哲学

大きな物語

「社会や自由は発展拡大していく」といった社会全体で共有されている価値体系。元はフランスの哲学

あかさたなはまやらわ

者リオタールの言葉で、**科学**がそれ自身を正当化するための語りをさす。リオタールはこうした「大きな物語」が解体していく時代がポストモダンであると説いた。

↓近代(モダン)

オノマトペ 擬音語と擬態語を総称したもの。擬音語は人や動物、物が発する音をもねて表す言葉。擬態語は霧囲気や状態を象徴的に表す言葉。

オリエンタリズム 西洋人がオリエント(東洋)に対して抱く神秘的な印象。パレスチナ系アメリカ人の文学批評家サイードは、西洋人が東洋に対して自分たちの都合のいいように持つ観念は、西洋側が植民地支配を正当化する根拠として利用した差別的な偏見の全体であると指摘した。

↓エキゾチシズム

↓ポストコロニアリズム

オリジナル ①複製、模倣されたものの元となるもの。②原物。③原作、原曲。④独創的。

関連 **アウラ** 芸術作品がいま・ここに結びついてその一回性に基づいて現象する特有の雰囲気。ドイツの哲学者ヴァルター・ベンヤミンが定義した語。ベンヤミンは、写真などの複製技術時代の芸術作品においてはアウラが凋落すると指摘している。

↓シミュラークル

外延 ある**概念**が適用される具体的な事物の範囲のこと。

対 内包 ある**概念**が適用される事物が持つ共通の性質のこと。

蓋然性 あることが起るかどうか、または、ある知識が真実であるかどうかの「確からしさ」の度合い。

概念 物事の意味内容。**概念**は言葉を使って表現されることから、「**概念**とは言葉である」といふこともできる。

外発的 他からの刺激や影響によってそうなるさま。
対 内発的 内部からの欲求に基づき、おのずとそうなるさま。

カオス (混沌・渾沌) 「コスモス(秩序)」に対立する語で、物事が混じり合つて区別がつかない状態。無秩序な状態から何かが誕生するという捉え方をする場合、肯定的に捉えられる。

対 コスモス (秩序) 規則や秩序がある整然とした状態。

↓複雜系

科学 人間から切り離された**自然**の内に見いだされる法則性を探求する学問。広義には人文科学・社会科学を含むが、主に自然科学をさす。実験などを経て同じことが何度も起こること(**再現性**)が十分に確かめられると法則と呼ばれる。科学は善でも悪でもない(**価値中立**)とされてきたが、科学も知の**パラダイム**から独立しているとは言いがたく、戦争や環境破壊などを論じる際には一つの思想的立場と見なされることもある。

↓仮説

仮説 ある現象や法則性についての説明とってももらしいが、まだその内容が実際には確かめられていない**命題**